

業務資料 643

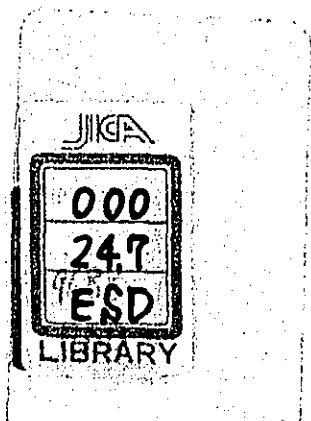
ゆうかり

第10回移住者子弟技術研修生
研 修 レ ポ ー ト



1982年3月

国際協力事業団



国際協力事業団	
受入 月日 '84. 5. 21	000
登録No. 06379	747
	ESD

ま え が き

昭和46年度から実施している移住者子弟技術研修制度も、本年4月に第12回生を迎えることになり、中南米より受入れた研修生は、現在研修中の第11回生も含め、総数177名になりました。

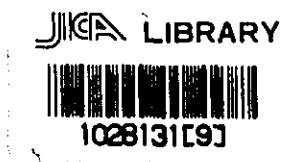
各研修生は幼い頃両親に連れられて移住し成人となった、あるいは中南米の地で生れた二世の人達の中から選ばれた研修生達にとって、父母が生まれ育った土地を踏みしめた感慨は非常に深かったことと思います。日本における研修は常に技術を身につけるということだけでなく、日本の国そのものの良いところを学ぶことではなかったでしょうか。

本誌は昭和55年4月日本の地を踏みしめてから56年9月までの1年6カ月間にわたり日本各地でそれぞれの技術研修を受けた、第10回子弟研修生の記録です。

高度成長した日本の社会機構の中で身をもって体験したことが、帰国後のそれぞれの地域社会において、一層活躍されることを願ってやみません。

最後に移住者子弟技術研修制度を深くご理解いただき、研修生諸君を温かくご指導下さった、関係機関の皆様にあらためて感謝の意を表する次第です。

1982年3月



国際協力事業団

移住事業部長

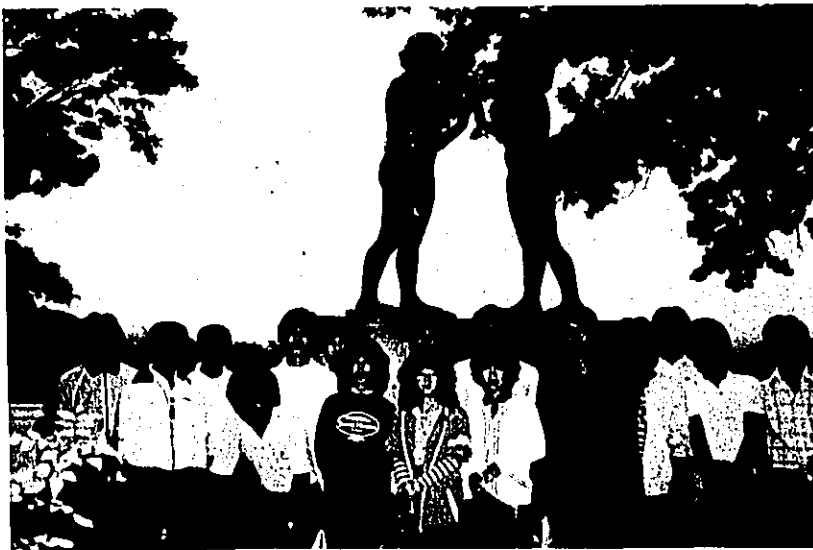
目 次

まえがき			
ブラジル国	フンシャル	山口 哲	1
	ロンドリーナ	村上 竹男	5
	イビウーナ	清水 信良	7
	バルゼア・アレグレ	秋 枝 修	9
	エフィゼニオサーレス	木 場 孝 一	11
	トレゼ・デ・セテンプロ	黒 田 孝 一	14
	第2トメアス	矢 内 長 徳	16
アルゼンチン国	ガルアベ	松之下ロベルト	19
パラグアイ国	アルトバラナ	渡 辺 信 夫	22
	フラム	榎 本 義 生	25
	イグアス	佐々木 信 孝	27
ボリビア国	サンファン	野 坂 カオル	29
	サンファン	水 島 琢 磨	31
	オキナワ	幸 地 悦 子	34
ベ ル ー 国	リマ	秋 山 ファン	35
子弟研修生一覧表			39

表紙写真は55年4月訪日時第10回生一同
(外務省前の桜並木にて)



国際協力事業団本部 新宿三井ビル前で



十和田湖で合同研修会



浅草観音で合同研修会



十和田湖で合同研修会

「研修を終えて」

山 口 哲

昭和55年4月5日、国際協力事業団のおかげでブラジルから第10回研修生の一員として日本へ農業の勉強に来て早くも1年半がたっていました。

日本へ来たときちょうど桜の花が咲いていたのがいまでも印象に残っています。あの花に日本を感じたからかもしれません。9日間私たちは、センターで日本のいろいろなことについて研修をうけ「もちろん旅行につれていってもらいました」

13日夜行で研修先の福岡県へむかい、14日の朝博多駅につき北九州支部と県庁にあいさつに行きました。その日は、19年ぶりに合ったおばさんの家にとまり、あくる朝県庁の車でうけいれ農家のある瀬高町へむかい、はじめに山門普及所にいき、ここで初めてうけいれ農家の息子さんと合い、あいさつをかわし、かれの車で家にむかいました。家につくと井上さん一家は私を明るくむかえてくれました。

「今日から、あなたは家族の一人だといわれたとき、私は、本当にうれしかった」私は農家の人たちといっしょに仕事をする事になり、朝7時から夕方6時まで、日ようから金ようまで土よう日に休みをもらいました。始めほうげんがわからず困ったこともあります。だけどもみなさん方が、しんせつに教えてくださったのですぐになれました。ついたあくる朝畑にいき、初めてビニールハウスをしたのです。始め温度調節のしかたを習いました。私が研修を受けた瀬高町は、福岡市から鹿児島本線を南に1時間20分汽車でいった所で、人口2万7,581人で農業を中心とした町です。ここではビニールハウスでナスが栽培されており、ナスの産地として全国に知られています。収穫されたナスは、ほとんど東京方面に出荷されています。

年間降水量は1951.1ミリ、田、1,643ヘクタール畑、278ヘクタール、果樹園169ヘクタール栽培されており、井上さん方ではトマト、ピーマン、ナス、キュウリ、レタス、セロリー、ストレッチアに米などが栽培されており、1年間は、井上さんの息子さんにつき、いろいろと学びました。かれは園芸試験場を出ておられ、またブラジルに実習にいった経験があるのでくわしくおしえてくれました。作物の病気などが見わかることが出来るようになりました。始めは草とりから、草とりといっても全部手でとらなければなりません。腰を曲げての仕事です。なれてない私にはいちばんつらかった。なにしろ腰が痛くてなりません。それを我慢してやっているうちにしぜん痛みがとれたのです。「このとき自分にいきかせたのです。もう大丈夫だ」それからトマトのトンづけピーマン、キュウリなどの出荷はこづめ手いれなどをやり、なれるとキュウリ、ナス、ウリの継ぎ木などをしました。

いちどおぼえてしまえば、むずかしいものではなく半年間自分が責任をとってキュウリとピーマン

をうけもち無事せいこうすることができたときは、ほっとしました。失敗もしました。いちばんきびしかったのは、自分がやったあと、だまってやりなおしておられる井上さんを見るときでした。また以上さんは、15年間以上土づくりにとりくんでおられ、私はこの技術をどうしても学ばなければと思い、たい肥づくりをいっしょうけんめい勉強しました。じっさいに自分が以上さんといっしょにたい肥の中にまざりこみ、つみあげられたおがくず、じんぶん、けいふんにこうそをまぜたものをスコップでなんどきりかえし、4カ月ぐらいうるとりっぱなたい肥ができあがり、これをたっぷりハウスの中に広げトラクターですきこむのです。またかしょく土にまぜると、すこいきのよい、いい苗がそだち苗を掘ってみると根が苗の3倍にもなっており、がっちりした根ができていました。このたい肥を使って1キロトマトを作ることに成功し、いまブラジルからもってきたマラクジャでテストしていますが順調にっています。

また地元の4HCに入れてもらい、農業青年たちとつきあうことができました。青年たちはこれから日本の農業をささえていかねばならない人たちで、農業に関していろいろな技術を勉強しておられる方々です。自分もいろいろと勉強することができました。4HCから普及所主催の技術交換大会や兵庫県で行なわれた全国大会、宮崎県の全国農業青年クラブ員のつどいなどに出席しました。また福岡県ブラジル農業実習生とのつきあい、そして今年で2年目のポルトガル語の教師として実習生におしえることができたのがよかったと思っています。

旅行もたくさんしました。日本の北から南まで、でもこの研修でいちばんよかったのは人生の勉強になったのと、たくさんのアミーゴスが出来たことと思います。

「合同研修会に参加して」

私は、この日がくるのがまちどろしかった。半年ぶりにみんなと会えると思うと、この日がちかづくにしたがって、1日1日が長くかんじ、みんな元気できてくれるといいがなあ、とっていました。

9月30日合同研修会の日がきてセンターへいき、入口へくるとうけつけのおばさんが、「おかえりなさい」といつてくれたのがとてもうれしかった。日本へきてさいしょにとまったところでもあり、自分の家へ帰ってきたように感じました。かぎをもらいへやへいき、にもつをおきまちあいしつへくると、つぎつぎとせんばいやなかまたちが、かえってきてみんな元気そうに、にここがおで「よう元気でいたかあ」といいながら、なつかしそうにあくしゆやだきあったりするのだった。

あくる日、ぜんいんでめんせつがあり「研修さきはどうですか」というしつもんで私は「かぞくのせいかつになれて、なやむことなく思うように勉強になっています。」といましたが、中にはこまっている人たちがいました。研修さきでおもうようにいかず、なやんでいてもアドバイスしてくれる人もいなかったからです。だけど今回の合同研修で、1年半の研修をおわり自分らの国へかえっていく

せんばいたちが、1年半の研修のあいだしてきたことをはなしてくれました。びょうきや、なやみごとなどがあり、それをのりこえさいごまでがんばってきた人たちなので、いろいろとけいけんがありわたくしたちのなやみごとなどにアドバイスしてくれましたので、さんこうになりました。

私は今回の合同研修でせんばたちと友だちになれたのですが、はじめての研修のとき、もっとつきあえる時間があつたならば、はやくともだちになっていたのでは、と思いました。

2日目のよる、せんばたちといっしょにパーティをしました。カーニバルのきょくをならしおそくまでおどったりはなししたりしたのが、とてもたのしくてせんばたちとのはじめてのさいごの良いおもいでになりました。

10月4日わたくしたちは、浅草、鬼怒川温泉に日光けんがくにいきました。浅草ではきねんしゃしんをとり、浅草観音に、おまいりしました。そこにはたくさんのはとがおりえさをやるとよってきて、手の上にとまってえさをたべるようになっておりました。宝蔵門のおおきなちょうちんに仲見世にはたくさんのはなものがそろえてあり、おおぜいの人たちでいっぱいだったので、おまつりでもやっているのと思っていましたが、ふつうだときいておどろきました。それからデラックス特急ロマンスカーで定期観光へいき、ここからバスで鬼怒川温泉のホテルまでいきました。ホテルでお酒のみながら、はなしたりうたったりしたのがたのしかった。またこうしているのを見ているとわたくしたちもやと友だちになれたと、かんじました。

あくるあさ、バスで日光けんがくにいきました。急カーブの多いいろは坂よくあんなところをつくったもんだと思いました。バスがカーブをきるたび左右にかたむき、ひっくりかえるのじゃないかとはらはらしていました。日光につくと湖があり、山には紅葉のいろにそまった木などがたくさんありうつくしかったです。

中禅寺湖の水のきれいなこと、でもとてもつめたかった。そこからながれおちるけごんの滝100メートルぐらいおちてくる水、すばらしいものです。でもいちばんかんしんしたのは建築とものすごい影刻があつたこと、それがぜんぶいきているように見えたからです。

こうして合同研修はおわりましたが、わたくしたち10回生がまとまったのと、思ったことをおたがいはなし、なかまのことをしんばいしているのをかんじ、さんこうになりました。まえとちがい今では、てがみやでんわなどではなししたりします。これからもどりよくしてせんいんと友だちになろうと思っています。

「一年間の研修について」

私が日本にきて、もはや一年がすぎてしまいました。今あとをふりかえって見ると、なんとこの一年間がみじかかつたことだと思ひます。日本へきたときは不安がたくさんありました。日本をしら

ない私たちはどんなところにうけいれてもらえるのだろうか、しんばいがありました。でもうけいれてくださった農家はしんせつな方のところで、すぐに家庭内のいろんなことにとけこんでいくことができ、いまでは家族の一人としてあつかっていただいています。この農家のむすこさんは、ブラジルの方へ3カ月間実習にいったられた人でブラジル農業もしておられる方ではなしなどがひじょうにあい、農業試験場などをでておられるのでいろいろこの一年間じっくりとおしえてもらいました。一時は、けんかする時がくるだろうなと思ったこともありましたがそんなことなくきょうだいやりもったしたしくなり、一年間がふじにおわりよかったと思っています。

かれは、4月から研修にいかれたのですこしさみしくなりましたが、これからは、井上さんにおおわっていろいろとまなびたいと、のぞんでいます。私は、露路そさいの勉強にきましたが、いまの日本は、ほとんどが、ビニールハウスさいばいにかわっており、露路さいばいの勉強はあまりできなかったけれどハウスのは、じっくりまなぶことができました。

私はこの一年間いろんなしごとをやってきました。ハウスたて、ビニールはり、でんきようせつ、かんきせんのとりつけ（ハウスの中のあったかい空気をすいたす大型せんぶうき）、はいすいかんとりつけ（これは、みぞほり、下に排水パイプをうめる）だんぼうとりつけなど、もちろんやさいのさいばいもしました。キュウリ・ピーマン・トマト・ナス・レタス・セロリ一花に、ナスとキュウリのつぎにとじょうたい肥作りなどをしてきましたが、どじょうたい肥作りをまなぶにはまだまだ時間がかかりますので、これからもつづけることにしました。また、家の方がひまなときや、やすみの日にはよその農家や試験場それに産地などに、しさつや見学にいきました。やさいはもちろん、果樹の方も見えています。また4日クラブにいれてもらっているので、いろんな会にさんかしており、県内でおこなわれる技術交歓大会やスポーツ大会、そのほか全国大会に2回いってきました。地元の4日クラブからも産地にしさつにいきました。このため友達はたくさんできました。また福岡県ブラジル農業実習生とのつきあい、留学生とのつきあいなどもしています。いっしょにきた研修生とも友だちになれたし、いろんな先生にあえたし、いろんな先生にあえたし、私自身もかわりました。いちばん自分でもきがつくのはじょうだんなどが、いえるようになったことです。いま私の胸はいっぱいです。ブラジルへかえったらおもいきり、仕事にぶつかっていく自信ができました。うけいれ農家の方でわかいものは私ひとりになりましたが、これからもくじけずがんばっていきたいと思っています。

昭和56年4月4日

「技術研修を終えて」

村上カルフス竹男

昭和55年4月5日、生まれて初めて父の故郷の日本の土を踏みました。日本に来て、早くも一年半の研修期間が終了しました。月日の過ぎるのが早いのはびっくりしました。日本に来ていろいろな事を学び、いろいろな人と出会い色々な経験をしました。ブラジルでは父たちの話で日本国の事を色々聞いてきましたけれども、今の日本は父たちの話とは、もう時代がすっかり変わり父たちの話は遠い昔のことだとわかりました。日本人の技術には驚きました。コンピュータにしろ、科学にしろ、とにかく進んでいるのはびっくりしました。トヨタ自動車の工場を見学に行かせてもらい、そのときロボットがコンピュータにより人の手を借りず自動的に仕事をしているのを見せてもらいびっくりしました。

日本はブラジルと比べて狭い国です。そしてこの狭い国で狭い面積の土地で一生懸命採算を上げることに励んでいる日本の農家の人たちを尊敬しています。日本は機械が発達しているので機械の点には恵まれています。けれども面積では僕達の方が恵まれています。だから日本人に負けないように一生懸命これからブラジルへ帰ってから日本で経験したことを生かして一生懸命頑張ります。

「研修について」

昭和55年4月5日、日本に着きました。

4月5日から4月13日まで横浜の海外移住センターで研修をしました。この一週間の研修期間に国際協力事業団に行き挨拶をしました。

4月14日に東京の国際農友会の鶴田さんが迎えに来てくれて国際農友会の事務所につれていってくれました。翌日4月15日静岡県国際農友会に行きました。そこで挨拶と紹介が終えて飯田健次さんの農家へ向かいました。4月16日から5月15日まで飯田さん農家で椎茸の栽培について勉強しました。5月16日から6月15日まで牧野さん農家で養蚕の勉強をしました。6月16日から7月7日まで海老名さんの農家でわさびの栽培について勉強しました。7月8日から9月3日までカネボウシルクで養蚕の勉強をしました。9月4日から9月7日まで宮崎県の4Hクラブの大会に参加しました。9月9日から9月30日まで北海道の中野さんの農家でりんごの栽培について勉強しました。10月1日から10月2日まで海外移住センターで9回生のお別れの会に参加しました。10月3日から10月5日まで日光に旅行しました。10月6日から12月15日まで静岡県の長田さんの農家で花の栽培について勉強しました。12月16日から56年1月15日まで親戚訪問をしました。1月16日から2月14日まで設楽さんの家へ行きました。設楽さんの仕事は植木屋さんです。ここでは植木屋さんの実習をしました。2月15日から4月25日まで寺尾さんの農家でキウイフルーツ

苗木の栽培について勉強しました。4月26日から7月30日までのカネボウシルクで再び養蚕の勉強をしました。55年7月と8月だけの期間では満足しなかったのも、また勉強できるようにして貰いました。カネボウシルクでの研修の内容

- ① 微粒子病がなく産卵量の多い種まわを必要数量確保する勉強しました。
- ② 種まわから多くの優良蚕種を製造する勉強をしました。
- ③ 製造された蚕種を異常なく処理し配給することを勉強しました。
- ④ 微粒子病の有無を正確に且つ迅速に検査することを勉強しました。
- ⑤ 原蚕稚蚕人工飼料育標準表の勉強をしました。

8月1日から10月30日まで水谷さんの農家で花の栽培について勉強しました。11月1日から11月30日まで寺尾さんの農家でキウイフルーツ栽培について再び勉強しています。

皆さんに

この一年半の私の日本にいる間、いろいろとお世話になりました。

日本人のあたたかい心をどこまでも、いつまでも忘れません。様々な経験をさせていただき、研修期間中色々とお迷惑をお掛けしたと存じます。まことに申し訳ございません。特に国際農友会の人達には、個人的な希望も認めてもらい、ほんとうにありがとうございました。

最後になりましたけれど、国際協力事業団の皆さんにもほんとうに心からありがとうございました。皆さんのあたたかい心と、ご協力をこの胸の中にいつまでもどこまでも大切にします。本当にありがとうございました。

「一年の研修について」

1980年4月5日に、日本へついてから横浜市の移住センターでもって、一週間の研修を受け、それからそれぞれの研修さきにわかれしました。ぼくの場合は国際農友会のほうで、研修さきが決められ農友会かいいの農家で研修をすることになり、はじめての農家は飯田さんの家でした。飯田さんところではしいたけ専門の農家でした。そこでしいたけの栽培についていろいろべんきょうしました。第2回めの研修さきは巻野さんの家でした。巻野さんの家では養蚕のべんきょうをいろいろおそわりました。第3回めの研修さきは、エビナさんの家でわさびの栽培について、べんきょうをしました。第4回めは、カネボウシルクで養蚕のタネの栽培についていろいろおそわりました。第5回めの研修は、ナカノさんの家でした。ナカノさんの家では、りんごの栽培をしていました。第6回めは花の栽培をしているオサダさんの家に行きました。第7回めは植木屋さんをしているシタラさんの家でべんきょうをしました。第8回めは今はいっている農家、寺尾茂さんの

家で、“KIWI”キウイの苗木の栽培についていろいろ、べんきょうをつづけています。

こうしていままでお世話になってきました農家はもう8回め、一つの農家ではたらく期間がみじかすぎていままでの研修は、みんなちゅうとはんぱになってしまいました。

「研修を終えて」

清 水 信 良

早いもので、とうとう一年半のリンゴ栽培の研修が終り、楽しい寮生活・友達・そして試験場の先生・生徒達と別れなければならないようになりました。

僕は国際協力事業団、そしてブラジルのリンゴ博士・後沢さん(もと長野県果樹試験場長)のおかげで日本のりんご栽培の研修にすることができました。

長野県果樹試験場へ来たのは去年の4月21日、まだ寒い春の中、桜の花が満開でした。りんご栽培部長竹前さんにあってさっそく試験場の職員、そして農業大学校の学生達を紹介してもらい、その夜は部長といっしょに後沢さんの家にあいさつに行きました。

その夜は長い夜でした。眠くても眠れない夜、僕はまだブラジルのことで頭がいっぱいでブラジルの親しい友達、父母の事、またこれから日本でどういう暮らししていいのか、日本語の漢字の読み方もわからない僕にはこれからどうあればいいのか、不安でいっぱいでした。

4月23日僕の研修が始まり、すぐに新しい友達ができ始めました。色々と親切に教えてくれました。こうして日本へ来てから20日もたたないうち、大勢の友達ができました。

日本人はブラジルの人にくらべて見ると、ほんとうに親切だなあと思いました。

さんねんながら1カ月してから十二指腸カイヤウになって入院したりして寮生、試験場の職員、そして国際協力事業団の方々にたいへん迷惑をかけました。

この頃の研修は、りんごの台木(M9、M26、マルがなど)の取木による増やし方で、土とオガクズを使い行いました。また花摘み、一輪摘果、仕上げ摘果などをやりました。色々とブラジルと変わった技術を見ました。変わった技術は、ブラジルでは花摘みはやりません。そして日本で始めてみた摘果、葉の枚数を数えたり、めのちょうが数を数えたりすることは始めてのことでした。

夏に入って、ゆういん・しちゅう建て・早生リンゴの収穫・また一つ一つの品種の名をおぼえるのがたいへんでした。

秋に入って、リンゴの葉・スターキング・紅玉・ふじの収穫・ふじの中でも系統がちがうものがあることを始めて知りました。試験場では約40系統の着色系のふじがあり、長野県で発見されたもの、

岩手県・青森県・群馬県・秋田県など、県外で発見されたものなどの調査を行い、着色・食味・最大果重・平均果重・糖度・酸度、硬度など調査しました。

12月にいままでいた寮の建てかえが始まり、寮生活から旅館生活に変わりました。旅館ではこたつ、一つだけのくらしで寒さがこたえました。

まだ寒い冬の中、リンゴ、ブドウ、ナシの剪定実習が始まり、雪の中で日本のすばらしい剪定を見ることができました。

剪定の中でも木のしたて方、スレンダースピンドル、フリースピンドル、マケンジー方しき、など見られることができました。

冬には、ブラジルではできないスキーも長野県の山で農大学の学生とやることもでき、1年半の研修中、いちばん印象にのこりました。

今年は、また新しい研修ができ、リンゴの交配、ニュージーランドのガラと日本のつがるとを交配し、その果樹のみしようから新しい品種ができます。

また新しい品種の調査、みちのく、ねぶた、紅月など見ることができ、去年わからなかったところが今年わかるようになりました。

研修期間中にブラジルでやったこともなかった、ボーリング、パチンコ、マージャンなど日本でやることができました。

この研修がためになるか帰ってみなければわからない、ブラジルへ帰ったらさっそく日本で研修したことをやりたいと思います。

この研修の終りちかくになって、荷物のじゅんぴや送別会や作文などで、とってもいそがしくなりました。

日本の有名なふじ・つがるを見ることができ、大勢の友達ができ、日本語を少しおぼえ、旅行も色々なところへ行くことができたことが、僕にとってとってもいい思い出になりました。

また友達や先生の方にお別れするのはとてもつらいことですが、またいつか日本へ遊びにくるチャンスができたらかならずこの試験場へよります。

国際協力事業団のみなさんにも1年半大変お世話になり、ありがとうございました。

【日本の印象】

私が、お父さんの生まれ故郷である日本の土を始めて踏んだのは今年の4月5日のことでした。まず人が多いところや道が狭いことに驚きました。

また日本へ来てから、電車の乗り方、お金のつかい方、漢字などに困りました。

半年ぐらい経って日本の生活に慣れ、電車の乗り方や、お金のつかい方も分かって来ました。しか

し漢字の方はいつまでたっても覚えられませんでした。

来たばかりのとき一人で東京の町を歩けませんでした。今年は一人で歩けるようになりそして一人で旅行もできるようになりました。

この研修期間中、福岡、京都、熊本、東京、広島、山口、岩手、盛岡、青森、栃木、群馬、新潟県など旅行しました。

長野県内では、善光寺、戸隠、志賀高原、伊那、飯田、諏訪、野尻湖、湯田中、中野、軽井沢、小布施、龍王などへ行きました。

研修が終わる一週間前、長野県の飯綱山に上りました。高いところから遠くを見おろすのは最高の気分でした。またブラジルでも見えるような気もしました。

日本へ来てから飽きるほど見たのは、田んぼ、そしてリンゴ園です。

東京から電車に乗って長野へ行く途中軽井沢までは、田んぼ、くわ畑、そして小諸から長野はほとんどリンゴ園でした。

東京から長野は電車で4時間かかりますが、その電車から素晴らしい景色を見ることができました。日本のどの電車から見景色よりも最高でした。

満開に咲いた桜の花、すきとうった川の水、赤いリンゴがなっている木、山で高く積もる雪、秋の紅葉など、日本の自然が私の印象にのこりました。

ブラジルへ帰ったら、私の100ヘクタールのリンゴ園の夢がまっています。

そして素晴らしいリンゴをつくって、いつでも日本へこられるようにしたいと思います。

「18ヶ月間の研修を終えて」

秋 枝 修

18ヶ月の間、養鶏と家庭電気とわけて研修を行いました。

養鶏では雛のそだて方をまなび、九州の方に配達に行ったり、設備のととのった養鶏場を視察させてもらいました。とくにウインドレスのかいかた、電気の調節をしたり産卵りつを高める、鶏はヒヨコのそだて方、ワクチンを正しくやるのがだいじとつくづく思いました。

短い6ヶ月間、ヒヨコの口ばしを切ったり移動けいぶんを出したり、ワクチンを与えたり、九州へ配達に行ったりしました。

家庭電気は、山口県立西部高等職業訓練校で道具のあつかい方、ハンダのつけ方、トランジスターのそうさ、部品の役目、テレビの理論、修理のしかた、ポンプの浅井戸深井戸のすえ方、エアコンの

ガスチャジ、取付け方等。

学校では漢字の読み書きが出来ないので、先生のせつめいをきき、専門語になれるのに時間がたち、先生たちもよくわかりやすくせつめいをしてくれて、たいへんたすかりましたが電気の勉強はむづかしい。

6ヶ月間だけでは日本字の出来ないぼくには、むづかしかった。あるていど理論はわかるようになりましたがたりません。そんなぼくが電気屋に入って研修させてもらいましたが、学校でならったそのままが出来ませんでした。従業員からいろんな、あたらしい事をならいました。エアコンのタイプのようせつなどをおぼえました。

日本に来てたくさん旅行もしました。北海道から沖縄まで。一番たのしかったのは大山にスキーに行った時、始めてたくさん雪を見て、その上ずべるのは夢のようでした。はじめにはころんだけれども、あの白い雪の上ではころんでもいたくなかった。帰る日が一番たのしかった。もっと居たかったけれども帰りました。又行きたかったけれど、予算の関係でいけませんでした。もう一度あの白い雪の上をすべって見たいなあ。

冬は木の葉がおちて雪がつもってきれいだ。春は木が芽を出しはじめて、みどりが生きがえり、さくらの花が咲き、一雨ごとにあたたかくなり、夏は海水浴やキャンプ、花火、盆おどり、秋は山の色がかわり木の葉がおちて何もいえない。

日本は気候にめぐまれ、又その時々行事、食物、服装と、とてもにぎやかだなあ。ふりかえるといろんな事がありました。合う人、話す人みんながちがう、その中で何かを少しまなび、たくさん友だちが出来てとてもよい研修をさせてもらい、本当によかったです。

「前期研修を終えて」

はやいなーもう一年！

日本にきて養鶏を半年勉強をさせてもらいました。あんまりかいかたは、変わりません。九州のほうの養鶏場をたくさん見させてもらってよかった。

10月から4月まで家庭電気かんけいの勉強をさせてもらい「ばんさいし」にラジオを組み立てができたときはうれしかった。そして白黒テレビ、あとカラーテレビのこしょう修理とたくさんの電気製品のあつかいかたと、どうさのせつめいをうけ、それはセールスマンが目的だったのでたくさんの製品をあつかいました。電気屋がどうゆうものか知るため、5回くらい電気屋で、てつだいました。

ぼくばセールスのほうは、あんまりできませんでした。最後に修理のほうができたのでよかった。

でも半年が短かった。すこし、なれてわかるようになったら、卒業式でさんねんでした。

りょう生活になれて友だちができ、いろいろさそわれて、アイススケートやスキーに大山までゆきました。雪をはじめてたくさんみました。そのうえをすべると、とても気持ちよかったです。ころんでもいたくないまるで夢を見ているようでした。4日間で、すこしすべれるようになりとてもよかったです。りょう生活ははじめて、きびしい毎日のくりかえしのなかに一日のリズムがよかったです。時間はきびしかったけど、なれてきました。はじめはつらかった。りょうの送別会は、りょう生と校長と夕食をとりながらおはなしをしました。

学校でも送別会を先生とさいごの日、たのしくやりました。

学校だけでなくいろいろな人に出会い、それが一ばんよい勉強になりました。

「技術研修を終えて」

木 場 孝 一

月日のたつのは本当に早いもので、技術研修に母国日本へと胸を大きくはずませてブラジルを出発したのは、ついこの前の様に感じられます。僕は農協に勤めていたことから、農協経理を専攻して来ました。そして、研修先は熊本で、立派な施設と名誉ある熊本県立農業大学校に入れてもらいました。4月14日に熊本に着き、15日が入学式でしたが、緊張したあのひと時、緊張感、嬉しさ、そして不安が入り交った複雑な気持ちがたまたまあの日の事は胸にこびりついています。いちばん大きな不安といえば、高校を出てそして大学へと進んで来た人達(学生)といっしょについて行けるだろうかという事でした。農業団体経営コースに入り、担任の先生(後藤先生)の指示により沢山の講義に出してもらい、自分が期待していた以外のものまでいろいろな勉強をさせていただいた事を本当に嬉しく思っています。又親切にさせていただいた先生方をはじめ学生の皆様には本当に御世話になりありがとうございました。学校に通いはじめて1~2ヶ月たった頃です。日本への研修が決り、自分はどんなところで勉強するのだろうか、どんな人に出合うのだろうか、そんな事で不安いっぱいでしたが、その不安もこの農大に入るまででした。先生達と顔が合う度に「もう慣れましたか」とか、「食べ物はどうですか」「勉強になりますか」と声をかけられ、こんなにも気を配ってもらってと思うとその暖い心遣いには本当に嬉しかったです。そんな暖い見守りの中で毎日講義に出ましたが、経営学、農協簿記、農協法、農協事業論、農村普及論、民法、農業保険、農協経営分析等、もちろん難しい事にもぶつかりましたが、学生や先生方の協力でやりぬく事が出来ました。外に学校の講義ばかりでなく、中央会や、単協の派遣研修もさせてもらいました。農大でいちばん楽しかった思い出

といえやはり2年生といっしょに行った北海道旅行です。名所めぐり、旅館での雑魚寝、写真の写し合い、本当に心に残る楽しい旅行でした。その外、近くの農場をバスで1日視察旅行をしたり、学園祭、ソフトボール大会等、等、こんな楽しい事ばかりだった1年間も、あっという間に過ぎ、この農大の研修も終り、お別れしなければなりませんでした。3月25日に卒業式が行なわれ、修了証書を手渡されましたが、反面やりきれない程淋しい思いがしました。いろいろな事が一度に頭の中に浮んで来たのです。でもその後も度々学校の方に行く事もあったし、仲間達ともよく合ったり出来ました。

後半は、西合処農業協同組合で実務研修をさせていただきました。ここでも組合長さんをはじめ、職員の皆様が本当に親切にしてくれて存分の研修が出来ました。学校で学んだ事(農協簿記)を実際にやってみると、講義で聞いて覚えたつもりでいてもいざお客さんを前にしてみるとやはり出来ない。難しい。はじめは金融課の貸付の方をしましたが、かなりの種類があり、そしてその種類別に利率も違うので、それだけでも大変でしたが、借入書の作成、伝票の起こし方など、ていねいに教えてもらいしばらくすると1人で出来る様になりました。その後貯金の方へ回り、窓口の応待もしましたが、これも書類の処理の仕方など一つ一つ聞いたり、お客さんに迷惑をかけながらも覚えてくるとおもしろいものでした。農協にいるといろいろな人達と話をする機会があり、ある組合員の人としばらく話をしましたが、その人は農協の事業をフルに利用し便利の良さをけんめいに話してくれました。一つは市内にある銀行とちがって自分達の農協であるし、市内まで出て行かずに仕事(畑仕事)の行き帰りに仕事着のままでお金の出し入れが出来るという事、もう一つは事業を何でもやっているので電話一本で何でもしてくれるという事です。貸付の方では、お金を借りに来られる人と貸付係の人達との話を聞いていて何度も感じた事ですが、組合側としては貸してあげたいのは判りますが(もちろん貸出高を上げる為にも)借入れる人に対し、いろいろ指導してやらなければならない。例えばコンバインの購入資金等、現在使用しているのも十分間に合うのに新しく大型を購入したい人に「まだ今の所その必要はないのではないか」などとプレーキをかけてやる様な事もしてやらなければならない。全くそのとおりでトラクターや、車でも同じ事が言えますが、コンバインは1年に一度しか使わない。しかも2~3日使えば後は又1年間倉庫にねかせて置く事になるのに全くの無駄金をつぎ込んでいるのではないかとも思われます。ここの指導というものが非常に微妙な立場にある様で難しさを感じました。農業も今はだんだん厳しくなってきた、農業だけではやっていけず、やはり出稼ぎに行かなければならないというのが現状で、どんどん兼業者が増えていっている様です。さらにもっと心配なのは後継者(農業)が少なくなっている事です。このままでは一体どうなっていくのでしょうか。野菜やスイカ、タバコ等作っても、値段のいい年もあるが、悪い年の方が多い様で、そんな事を良く知っている若者達は、どんどんサラリーマンになっていく傾向が見られます。それゆえにこの農産物の流通の過程というのもこれからの大きな課題になるのではないのでしょうか。この様ないろいろな問題点

や難しさ、その問題にどう対応していけばいいのか等について考えさせられますが、農大で勉強した事。又農協で感じた事、聞いた事を参考にブラジルに帰ってからきつと役立たせ頑張りたいと思っています。いろいろお話、御指導して頂いた農大の先生方、そして農協の職員の皆様方に心から深く感謝致します。又この機会を与えて下さった国際協力事業団には本当にありがとうございました。

「前期研修を終えて」

1年間というものがあまりにも早すぎた様な気がして、巾広く沢山の勉強をさせてもらったのですが、欲を言ったらきりがなくて自分の出来る範囲内にまとをしぼり他の学科の先生方からも「ひまがあったら自分の講義にも出てみないか」と声をかけて下さったのですが、とてもそんな余裕はなく経営コースだけで精いっぱいでした。ところがそれ程余裕がない中でも、いい機会に恵まれて後半に希望していた農業機械も、農大の農業機械の先生の御世話で資格を受けに行きましたが、2週間で農業機械工〔2級〕の講習を受け認定証を獲得することが出来たことを本当に嬉しく、又満足して居ります。それが前期内に出来たことから後半は学校で学んだ事の中で納得出来なかった事とか、もう少し細かい所等を明確にしたい気持で実務研修を希望しました。

学校で学んだ事といえば頭の中はいっぱい何で拾い上げて述べればいいのか迷う訳ですが、これからの日本の経済を考えると、今はともかく10年先以降には戦後と同じような食糧不足の危機がせまっているという事です。それは農業者がどんどん減少していくにもかかわらず、人口は益々増えていく一方で、このままでは必ず食糧危機が来るという先見から農業協同組合中央会では、今のうちに農業者をのばしておくことが必要であることを強調し農協を通してけんめいに働きかけています。

「買えば何んでもある」というのが今日の生活環境の実態で、今まで庭先で作っていた野菜も作るのをやめて買って食べるというような農家がどんどん増え、自給率が低下しそれも急激である為、その対策に全力をあげている様です。その大きな役目をしているのが農協で、農協内にも指導員を置き直接農家に出向いて指導をしています。その指導のやり方(要領)も後期の研修に計画してありますが学校で学んだ科目の中にあつた「農村普及論」と合わせて習っておこうと思っています。これはブラジルにとつても、いくら土地はあつても作物は作らないという人が沢山いるし、又現地の人は作ろうと思つても作り方さえ知らない人がいます。もちろん現地にも営農指導員はいますが、日本人に比べるとあまりにもものんびりしている感じで活発な動きが見られませんので、その人達と一緒になつてもう少し日本風なやり方で働きかけたいものです。

最後になりましたが、1年間御世話になつた先生方には心から感謝しています。スケジュールいっぱい忙しい中、僕一人の為に時間をついやしてまでいっしょに行動して頂いたりして本当にありがとうございました。この親切にいただいた方々にこたえる為にも、ブラジルに帰つたらその成

果を上げなければならない責任をこの身で感じています。又後半の半年は農協に行きますが、またここでも御世話になりながらもこの恵まれた機会を有意義に過ごしたいと思っています。

「技術研修を終えて」

黒 田 孝 一

昨年4月、桜の花咲く季節に第10回移住者子弟技術研修生として、国際協力事業団のお陰で日本へ帰って来て、早くも、1年半の農業技術研修も残り少ない日々と成りました。私は、日本で生まれ、1歳の時家族に就いて、ブラジルに移民としてゴムの栽培に行きました。其の他日本語の読み書きがとても不自由で困っています。

やっと適った僕の夢。いつかはきて見たかった私の故郷。話やテレビ、または映画では見たり、聞いたりしていたけれど、実際自分で見たところ、あまりにも差が有りすぎた。都会に行ってみると、話に聞いていたよりも、若干違っていました。もう日本には田舎は無いと聞いていた。でも、九州はまだまだ沢山あります。それでも確かに進んでいる国と思います。これだけ小さい国に、1億1千万人の人口が、このような安定した生活をしているのに大変驚きました。また殺人も大変少なく、泥棒も余りないし、町を歩いても紙屑や芥などが落ちていない。法律もよく守っているのに感心します。学校の教育も思っていたより素晴らしいこと、このようなことを帰ってから、土産話にしたいと思っています。日本にこれたお陰で沢山の親切に会える機会ができてよかったと、思っています。今まで、一回も会っていなかった人ばかりでした。でも、とっても親切に歓迎してくださった。休みの日は、なんでもお世話になり、色々と言話を聞いたり、聞かせたりして、楽しい日を何度も過ごしました。また、たまには、農協や、農家の色々な所に見学案内してくださった。とても勉強になりました。

前期の一年間は、熊本県菊池郡西合志町農業園芸試験場で野菜の勉強をしました。最初はつまらないと思いました。毎日ハウスの中でメロンの人工交配ばかり、何日も続けることでした。月日が過ぎて、友達もでき、辛いことも忘れ研修と遊び励み、毎日のすぎるのが早くなるようでした。夏になって、色々野菜のしゅるいも多くなり、メロン、スイカ、トマト、キュウリ、ナスビとなり実習も面白くなりましたところに病気をしました。でも、お陰様で、すぐよくなりました。その後、ハウスを建てる実習がありました。日本は、季節があつて、一年間野菜を作るのは色々施設が必要となるので、とても作りにくいと思います。とくに冬は、ダンボウが必要です。また今はとくに省エネルギーの時代であつて、色々な方法で施設が必要となっていますので、色々な機械の試験も行いました。野

菜作りは、どうにか習うことができました。土壌作り、堆肥作り、肥料の与えかた、種のまきかた、接ぎ木、および栽培については、自信ができました。特別研修生として、ハウスを与えていた。グループに別れていろいろな菜を栽培して、研修旅行の金をためました。毎日時間外にやることでした。お陰様で旅行が、宮崎県に6日間農協や農家を見学することができましたので、とても勉強になりました。

「後期の研修を終えて」

前期1カ月間は、九州でも一番優秀な酪農家にお世話になり、色々と御指導と御支援御協力頂きました。永年の酪農経営技術をアドバイスしてくれました。その後、5月27日からは阿蘇の草地畜産高等研修所で研修を行なうことになりました。ここは試験場と研修場と一緒になっておりますので、先生が沢山おられました。研修生仲間が24名で、皆な高校を卒業したばかりで、考えることがまだ子供みたいなところも沢山有るので一緒に研修をするのもむづかしかった。でも、時と場合によっては、とても楽しい一日となる日も有りました。此の研修所は、とても厳しい生活をしていますけど、先生方はとても親切に、いつも色々と教えてくれました。その上、また何かの問題で解からない時は、「いつでも連絡して下さい」と言ってくれるので、とても心強く感じました。でも残念ながら期間がとても短いことです。でも、思ったよりも、色々と学ぶことができましたので嬉しく感じます。

この18カ月間の研修生活をふりかえって見ますと、色々な事を学び、また色々な事を体験したと思います。たまには辛い事や、悲しい時もありました。でも一番多かったのは、矢張り楽しかった事だと思います。これから祖国に帰って日本で学んだ事を応用して、これからの畜産を発展して行きたいと思っています。また伯国に帰ってからも、日本で知り合った人との交流を大切にしていきたいと思っています。最後になりましたが、この1年半の研修期間中あたたかく見守って下さった先生方、御協力して下さいました家族の皆様と、この様な機会を与えて下さった国際協力事業団の皆様、今後とも末長く良き指導を願いながら、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

「前期研修を終えて」

熊本県菊池郡西合志町農業園芸試験場で一年間研修を行いました。一年間と思うと、長いようで短い時間です。この期間は、いろいろと皆様にたいへんお世話になりました。お陰さまで、無事に研修が終了しました。3月の27日に卒業証書を貰いました。その後盛大にレストランでお別れ会をしました。研修生は、みんなで10人でした。私は、野菜作を勉強しました。おもに、野菜の園芸施設及び省エネルギーについて新しい農業を勉強しました。作物としては、おもにメロン、スイカ、トマト、キュウリ、ナスビでした。作物はほとんどハウス作物でした。最初は私には、ためにはなら

ないと思いましたが、よく考えてみずしたところ、いつかはためになると思っています。とくにハウスなどは、私の国は暑いので、とつてもだめだと思いましたが、雨よけだけは、必要と思いました。そのほか、たとえば温度を高めることはブラジルでは、必要はありません。だから、最初の3ヶ月間はつまらないと思いました。最初は、メロンとスイカの交配ばかりでした。そのほか、講義もありませんでした。だから先生に、知らないところは聞いて細かく説明をしてもらいました。同じ研修生もとても親切に教えてくれました。仕事の暇にはいろいろと農業について話をしました。休日は、農家の見物などをしたり、親戚のどこへたづねにいたりしました。冬には友達とボーリングしたり、スケートにいたり、また、冬は今日のように仕事の後は1時間ほどサッカーをつづけました。そのおかげで体力がつき、病気もせず、ぶじにすごすことができました。冬が過ぎたので安心しました。これからは、もうだいじょうぶと思っています。この一年間は、楽しいこと、悲しいこと沢山ありました。辛いことは、まず一年間自炊をしたこと、それから夜に雨が降る時おきてハウスのカーテンをしめに行くのが、とてもつらかったのです。また、朝は、はやくあけにいました。病気になるでも見てくれる人がいないので、とても不安なことがありました。また、日本語の読み書き、とくべつ漢字は覚えにくいのです。なにかを書いたり、読む時は辞書を引いて調べないとできません。漢字を今日のように勉強していますけれど現在身につけているのは、少しと思います。今回も、いざ書くとした場合は、正確な字は書ききれません。また、楽しいことは、いろいろとありました。まづ一ばんは、手紙を受けとること。次は、沢山の研修生が集まる時、ポルトガル語でだれかが話してくれる時、親戚に会える時はとても嬉しい。また、旅行がとても楽しいです。どうか一年間の研修が終りまして、ひと安心しました。後の半年が楽しいことがあるよう祈っています。

「技術研修を終えて」

矢 内 長 徳

昭和55年4月5日。私はブラジル国のパラ州、第2トメアスと言うところから、「第10回移住者技術研修生」として、日本へ来ました。

はやいもので、もう2回目の夏も過ぎ、1年半の研修も終わろうとしています。

思えばこの1年半は、長いようですがふり返ってみると短い研修だったと思います。

私はキャタピラー三菱と言う、建設機械の会社でお世話になりました。

研修を受けていちばんこまったことは、教育の時でした。私は漢字の読み書きが出来ないため工場へ戻って先輩方に教えてもらわなければ、わかりませんでした。

4月には、相模原市にあるキャタピラー三菱の本社で2週間ほど教育を受けて来ました。そこで、なにより先に言われたことは「安全第一」と言われたことでした。ブラジルでは、なかなか聞かれないことばでしたので感動しました。

5月から八王子市にあるキャタピラー三菱の西関東支社の工場で実習をして来ました。

ここでは車体、エンジン、パワートレイン、電装品と各班にわかれています。ここで、すぐに車体で実習をしましたが、主に脱着作業ではずされたものは、専門の各班へ持っていかれます。又ここでは、ファイナルドライブ、ステアリングクラッチ、トラックフレーム等のオーバーホールもしました。ここでは特殊工具の使いかた等を実習しました。

10月からエンジン関係の班へ行き、「3204、3304……3530」等、全機種のエンジンのオーバーホールをしました。

各所の精密測定や部品再使用、それに特殊工具の使い方はかなりやっかいで、頭の痛くなる毎日でした。

1月からパワートレインの班で、トランスミッション、ハイドロリックタンク、各シリンダ、バルブ関係の実習をしました。

前期も後期も同じ内容で、研修をしましたが、どれも、むずかしく今だにわからないことばかりです。今、考えると日本でこのような設備の整った工場研修を受けて、何も設備のない自分のところへ戻って、うまくやれるかどうかわかりません。この研修でおぼえたことをすべてやるようになるまでは、時間がだいぶかかるようです。

18ヶ月間の日本での生活は、つらいことや楽しいことのくり返しでした。しかし、研修も終わる頃には、もう仕事も1人で出来るようになり、サービスマンの皆さんにも、ついていけるようになりました。又、おぼえれば、おぼえるほど、むずかしくなっていく研修だったです。そんな中で、サービスマンの皆さんは、なんでも教えてくれました。まるで後輩に教えるように、一つ一つていねいに教えてくれました。

皆さんと知り合い、そして仕事した、この1年半の体験を一生忘れることはないと思います。帰ってから皆さんのことを、心大きく友人や先輩に話せることが出来ます。

キャタピラー三菱の皆さん、国際協力事業団の皆さん、一年半の間、ほんとうにありがとうございました。心から感謝します。

「前期研修を終えて」

私たちが日本に来てからはよいもので1年たちました。自分にとっては長いようでみじかいようにも感じました。日本に来たのがきのうのように思います。

自分の研修さきはキャタビラー三菱です。

ここでは思ったよりよいところです。「ここで1年べんきょうをするんだ」「ぜったいまけないぞ」といい聞かせても、やっぱり不安でしかたがありませんでした。

初めの1ヶ月は工場に出ても見学ばかりでした。そのときは1日がとても長がかんじました。会社の皆さんになじむまで時間もたちました。今は皆さんと、親しくなり自分の会社にいるような気持です。

この中でもほんとうに心をひらいて話せる人はかぞえるぐらいしかいません。

日本のサービスマンは、心のやさしい人たちでこちらが聞く前におしえてくれます。

工場では各班にわかれていますがその中でも、いちばん長くおりました班は車体かんけいでした。車体ではステアリングクラチだちやく、作動げんり、とくに多くやるのは、ファイナルドライブと足まわりかんけいでした。ここのは6ヶ月で又いちばん思いでのある班です。

そのあとエンジンにうつりましたがそこでとくにおぼえたことは、部品のはんていとさいしょうでした。

パワトレンでは、油圧かんけいとトランスミッションだちやくと作動げんりでした。

さいごには、多摩支店のフィールドサービスでみにつけたことは、トラブル関係でした。今では1人でやっていける自信もつきましたが、はたしてどこまでやれるだろうかと思い自分を早くためしてみたい気持でいっぱいです。自分がこれまでおぼえたのも、心あたたかいサービスマンのおかげだと思います。その人たちに恩がえし出きるのは、ひとつだけでも多くおぼえることだと自分で思いいしょうけんめいやりました。

それでもおぼえきれないときは、努力がたりないと思っています。

それでも、寮にもどるとまいばんのように友達におしえてもらっていました。

今、思うとそれがあつたからこれだけおぼえきれたのではないかと、その人にもかんしゃしています。

その中でいちばん苦労したのは、漢字のよみかきができないのが、残念でなりません。今は日本の現状がすこしわかってきたようです。

この研修のおかげでいろんな人達と出あい、人と人のつながりがどんなに大切なものかわかりました。

「研修を終えて」

松之下 ロベルト

とうとう研修を終える日がやってきました。

嬉しかったこと悲しかったこと、いろいろなことを体験しましたが、これからは全部自分の心の中に一生残る思い出となるでしょう。

今から一年半前、22年間の夢が実現した。

あの春、そう……昭和55年4月5日、アルゼンチン国から第10回移住者子弟技術研修生として初めて日本国にやってきました。

あの日東京Cityは灰雲におおわれていましたが見事な桜の花は、それを吹き飛ばしてしまうほどきれいなものでした。生まれて初めて見た桜の花を見つめながら、「どんな事があっても長年の夢が実現したのだから頑張っていこう。」と決心しました。国際協力事業団、アルゼンチン国、カルアベ移住地の皆さんや両親の事を考えるとそれはあたりまえの事でした。

私がアルゼンチン国から立つ前に考えていた日本と現実の日本は、全然違っていました。

最初の6ヶ月間は何も知らず不安の多い毎日で、例えば名前や月日までがわからなくなったこともありましたが、6ヶ月後からはどうか慣れ、日本の文化や習慣について少しは理解できるようになり、日本の社会についても、もっと深く知ることができました。

一ヶ年半の研修期間は長いようで短いものでしたが、この間、多くの体験をしたので、自分自身を深く知る事ができ、又遠くから見ることによってアルゼンチン国の現状を理解することができるようになり、自分にとって大きな収穫を得ました。

では、この一年半の研修と生活について述べてみたいと思います。

まず、前期5ヶ月間は茨城県農林水産省果樹試験場千代田試験地で核果類(モモ、アンズ、ウメ、スモモ、アプリコットなど)特にモモの栽培について研修を受けました。

ここでは育種第一研究室で研修を受けましたが、主に品種改良の試験を行っていたため、栽培的な面では直接学ぶ事ができませんでした。

しかし福島県、山梨県、群馬県などの栽培現地を見学させていただき、いろいろな栽培方法を学びました。その中では想像もしてなかった技術も多く“オドロク”ことばかりで、農業技術の進歩について多少の疑問を感じたのも事実です。それは日本の商社が年々高級な果物を要求する為、農家は毎年新しい技術に頼って果物を生産しないと生きていけないからだと聞きました。

ここでは日本全国から集まった研修生と一緒に研修を受け、各種の作業をしたり毎週2回ほどモモの栽培と病害虫の講義を聞いたりしました。でも未だ日本語も充分でなかったので講義も少ししか聞きとれませんでした。自分なりに吸収しました。又、早く色々な事を覚える為、土曜日の午後から

と日曜日は試験地の近くにある農家の世話になり、手伝いをしながら日本での農家生活も体験させていただきました。

昭和55年9月1日からは同じ農林水産省果樹試験場興津支場(静岡県)育種第三研究室で柑橘について研修を受けました。

現在アルゼンチン国ミシオネス州ガルアペー移住地では温州ミカンの栽培が中心となっていますので、その栽培技術について重点的に研修を行いました。特にミカンの選定の技術を学びましたが理論上と実践することでは全然ちがうことがわかり2~3ヶ月の研修で全部学ぼうと考えることが間違っていることを知らされました。選定の仕方は地域や個人によって違い、技術を覚えるためには各地で5~6年研究を行って、その地方に合う選定法を、みつけなければいけないことを学びました。

初めは柑橘について何も知りませんでしたが興津支場の方々に教えてもらったり、大卒の研修生の皆さんが勉強会を毎週開いてくれたりしたおかげで、いろいろ勉強になり研修をスムーズに終わることができました。又、現在日本での温州ミカン栽培はとても厳しい時代になっているため皆とても熱心で、自分も、これからアルゼンチン国の10年先に同じようなことがあるかもしれないと考えたので、彼らの話のひとつひとつを大切に聞きました。

ここでは、ミカンの研修だけでなく、清水市の青年団やサッカークラブに入れていただいて色々な活動を行うことができました。

青年団では200名の青年に混って活動しながら楽しい日々を過ごしました。

真冬の3ヶ月間の夜替(火の用心)、駅伝大会に出て自分達の青年団が優勝したこと、サッカーの冬期大会で負けてばかりいたこと、運動会や2週間も続いた正月のダンスパーティなど思い出は尽きることがありません。

青年団の皆様には親切にいただき、お互いに意見を交換したり、将来の事についていろいろと話し合うことができましたが、時にはわからない事があったりして迷惑をかけたこともあると思います。活動中で困ったのはお酒のつき会いです。国によって習慣が違うことはわかっていましたが、初めの頃酒のつき会いが日本ではとてもハードに感じられました。でもその中でいろいろな話が聞けたり、人々とのつき合いで親しみを増すことができたので良い経験をしたと思っています。

昭和56年4月7日からは後期研修に入り沖縄県農業試験場名護支場パイナップル研究室でパイナップル栽培法と薬剤による花芽誘起の処理について研修を受けました。薬剤による花芽分化の技術はとても勉強になりました。アルゼンチン国でのパイナップル栽培においてとても大切な作業になることだと思っています。

現在アルゼンチンには無い技術を学ぶことができたのはとても嬉しい事でした。

また沖縄県では試験場の皆さんや他の人達にとっても親切にいただき、自炊生活をしている自分のために、いろいろと世話をしてくれたり、仕事の上でも忙しい中を各地のパン工場、農家、熱帯

研究室、ふつうの人々が入れないようなところにも案内して下さいました。

ここでも青年会の盆踊り（エイサーとって沖縄県独特のもの）に加えていただきとても良い体験をしました。

とにかく研修の面でも学ぶことが多くあり、また人々の人情も厚く忘れられない思い出が沢山ありました。

さて、これまでこの1年半の研修について述べましたが自分にとって学ぶところが多く、とても良い勉強になりました。このことから自分の人生の指針みたいなものがわずかながら見えてきたような気がし、又、社会人として世の中を渡って行くのにも多少の自信がついたようです。

このような体験をする機会を与えて下さった国際協力事業団の方々や研修中お世話になった皆様方に心から感謝致します。

これから先自分がどこまでやれるか不安もありますが、少しでも人々の役に立てる様頑張っていきたいと思っています。

茨城県、静岡県、沖縄県、この研修期間中でお世話になった皆様本当にありがとうございました。

Colegos de le 10^{ma} teuproda de tecnicos especiolidadas deceo luchen con ancie y fé.

// triunfo y FELICIDAD //

「合同研修会に参加して」

日本に子弟研修生としてくることになった時、両親から色々と日本の話を聞かせてもらい、私は頭の中で私の日本を作りはじめ、毎日夢が大きくなり、日本のことをほとんど知っていることと思って来ました。

4月5日、日本に着いて1日1日過ごし2週間を迎えて父母の話と現在の日本の性質や色々と違うことを感じました。

私自身も毎日違うことにぶつかり、日本にたいして何も知らないことを感じました。また日本の発達した文化に追い着くことが出さず不安になってきました。この不安の道を歩くのがつらくなり、どのように続けていいのかわかってしまいました。農林水産省果樹試験場（千代田）試験地の皆さんの力添えのおかげで立ちなおることができ、日本語や日本人の性質、文化を知るについて毎日過ごすことが楽しくなりました。

また6ヶ月後の合同研修会を1つの夢として、つらい時や悲しい時の支えとなり、第10回生の人々が上げる成果以上に勉強して行こうと思ひ頑張りました。

昭和55年10月1日から5日まで第10回生のみなさんと集まって合同研修会が横浜海外移住センターで始まり、半年ぶりに見るみなさんの元気な姿を確かめられて安心しました。

はやいもので、あの4月5日から6ヶ月を迎えました。

この合同研修会は私に対して、とてもプラスになり同じ研修のみなさんが研修先で大きな問題があったことがわかり、信じられませんでした。この話を聞いたあと、私が研修先でどんなに思われているかがわかり、うれしいことだと思いました。

また、第10回生の研修生の個人個人の成果が感じられ、私のこれから残された研修期間に対して大きな張ができ、とても楽しいことでした。

この合同研修会は1つの場所での研修でなく浅草の観音、鬼怒川、日光などの観光地を旅行しながら、なんとなくこれまでと違ったつき合いが生まれ、みなさんの心を深めに知ることができ信用も生れて来たこともありつき合いを深めることが出きまして嬉しいことでした。またこの旅行中に伊藤さんが第10回生のかかえる問題について意見や答えを出してくれ、第10回生のみなさんの意見といっしょに個人個人の問題については、みんなで意見を出し合い、なごやかな方向に進めることが出き、第10回生の仲間も心が通じ合い、1つにまとまった感じがしました。

日光ではとてもめずらしい物を見ることが出きました。

それは、あのような大きなたてものが何のためにひつようであったのか、また330年前にあんな立派なちょうこく技術があったことは信じられないことでした。そのほかに金が多くつかわれていたのが夢のようでした。

見学しているとちゅうで、メキシコ人の団体旅行者と合ってスペイン語で話すことが出きアルゼンチンに帰った気がしました。

私は日本人の子供として誇りをもって、日本に来てどんな印象を受けたかと聞いて見ましたが、こたえはこのようでした。日本の国はとてもよくて、日本人はみんな親切にして下さって楽しく思っています。また、この日光のたてものを見るだけで1つの印象として国をあらわせるとも話していました。

この合同研修会のおかげでみなさんのかかえている問題聞いたため自分の立場がわかり、考えを見なおして、もっと、もっと成果を上げたいと思いました。

「研修を終えて」

渡 辺 信 夫

私が、国際協力事業団直営であるアルト・パラナ診療所に勤めていた当時、事業団が日本への移住者子弟技術研修生を募集していたので、私もちょうどその頃レントゲンに意義を持っていたので応募しました。

そして、ピラボ事業所長の推薦を頂き、我が生まれ故郷へ帰れる事を知った時は、口では言い表わせないほどに感激しました。こうして1980年4月5日第10回生は故郷の表玄関である成田空港に無事到着したのです。そして横浜市に在る海外移住センターにて合同研修を終えた後、各々熱意と意欲を燃やして研修先へと行きました。

私は大阪の桜橋渡辺病院にて約一年間胸部、骨部などの一般撮影を実習させて頂きました。当院では9～17時まで勤務時間です。待合室には一日中患者が殺到しており、X線撮影に追われる日々を送り、その反響もあって撮影技術を習得できたのです。単純撮影に関する全ての撮影法、解剖学などについて勉強しました。院内回診車もあり、オベ前、オベ後の患者は日に5、6回胸部撮影します。一般撮影だけでも5、6人撮り、真冬でもレントゲン室ではクーラーを使うほどに汗水流して頑張ります。生存競争の激しい現代、特に大阪は日本一足が速いと言われ、又それだけに何につけても無関心です。食事をしても、食べると言うより飲み込むような調子です。X線従事者は検査の方法によっては、X線の被曝を完全に避けることができない場合があるので、個人の被曝量を知ることが必要です。被曝量の測定には一般にはフィルムパッチを用いる方法があります。業務中に外衣につけるか外衣のポケットに入れて保持し、2週間毎にフィルムの入替を行ない、使用期間中の被曝の総線量がわかります。X線の恐さについてもよく認識でき、つくづく痛感しました。まず撮影の原則として、被曝時間を短くすること、距離をとる、遮蔽をする、のX線防御の3原則を用います。胎児に対してはX線の影響は大きいので、妊婦のX線検査を止むを得ず行なう場合には胎児への被曝をできるだけ避けるようにします。組織、臓器の放射線感受性に違いがあります。感受性の高い順に並べると、1) 胸線、リンパ節、骨髄など、2) 睪丸、卵巣、皮膚など、3) 軟骨、成長骨、肝、腎、肺、神経組織など、頭部、頸部が最も感受性が高く、腹部、大腿、顔面の順で低くなります。放射線の皮膚に対する作用は、熱作用と同様に次のように分けてその障害度を区別します。第1度脱毛、第2度紅斑、第3度水泡、第4度潰瘍、となります。X線写真の画質の良否については、X線装置よりむしろ撮影用具の方の影響が多いので、その選択と取り扱いには注意が必要です。散乱線は、被写体中を透過する入射X線（一次線）と方向を異にして発生するX線で、二次線とも呼ばれ、写真の画質に影響し、コントラストを低下させ鮮鋭度を悪くする。管電圧が高いほど被写体が厚く高原子番号の物質ほど影響は大になります。一般写真のフレアーや「カブリ」と同様な作用をするので除去は非常に大切で次のような器具で行ないます。X線グリッド、多重（可動）絞り、遮光筒（コーン、ツープス）X線用フィルムには直接撮影用と間接撮影用とがあります。直接撮影用は、とくに感度、コントラストをよくするため、支持体の両面に乳剤を塗布してあるのが特徴です。特殊な用途に用いられるものとして、無増感紙用、乳房撮影用、歯科用などがあります。間接撮影用は片面乳剤塗布でロールフィルムとカットフィルムの2種類があり、一般用に比べて、感度、コントラストが高く、粒状性が悪い。X線が直接フィルム感光膜に吸収される量はわずかで、殆ど大部分が通過してしまい、そこで通過散逸する

エネルギーを捕えて、再びフィルムに感光させるのが、増感紙の役目です。増感紙は多量のX線を吸収して蛍光を発するから、これをフィルムに密着させると、フィルム感光膜に強い写真作用を与えます。カセットはフィルムを室内光線から遮断し、フィルムと増感紙とを密着させる役目をするものです。身体部位によって異なるが、一般に300r~400rを一時照射すれば、2週間~3週間の潜伏期をもって一時的脱毛をきたす。この線量にては脱毛は再生します。尚、永久脱毛線量は3,000rとす。一般に頭髪に比し、眉毛、腋毛、恥毛は脱毛しにくいのです。X線撮影は胸部に始まって胸部に終わると言われるほど、胸部撮影は重要視すべきであり、又一見撮影も簡単に思えますが、撮影条件や距離によって診断価値のない写真になります。尚、日本には生命保険、健康保険、傷害保険など保険制度がある為、医療費も割安で済み患者も治療に来ると言うより、予防に来てるに等しいでしょう。治療費がわずか2~3割、又は無料で済み、さらに70才以上の人は診察費は無料です。こういう保険制度は是非バ国にも取り入れたいですネ。

55年10月1ヶ月間、奈良医大癌センターへ見学に行かせて頂きました。コバルト60、ベータトロン、リニアック、ラジオ、アイントープなどは診療放射線で、全て癌の治療に使われます。造影剤を使つての撮影には脳室造影検査法、気管支、乳管、血管系、消化管、胆道、生殖器、関節腔などありますが、この中でもX線技師が撮影できるものは食道、胃、十二指腸など消化管と胆のう造影です。こうして研修も終えて帰国次第、学んだ技術を活かしバ国の為に貢献できれば幸いです。又、御存じのとおりバ国にはこういうX線技師は3人、この業務に携わる人がいませんので今後も是非、X線検査の勉強に来る研修生を推薦される事を要望致します。

日常の御多忙にも拘らず、絶えず御指導頂き、且つ日頃御鞭撻賜わる国際協力事業団の皆様をはじめ、中出先生の御厚意に深謝申し上げますとともに、桜橋渡辺病院X線科一同様、奈良医大癌センター放射線科の皆様、そして久美浜病院一同様の御厚意に深謝申し上げます。御指導、御声援ありがとうございました。

「前期研修を終えて」

私は大阪の桜橋渡辺病院にて、一年間レントゲン一般撮影を実習し、ほぼ習得したわけでありました。しかし、X線に関する理論はむろん、解剖学も疎かな自分にとって、この実施研修は人一倍の苦学を要する事でした。X線撮影の条件としては時間、距離、遮へいの三つがありまして最低限これだけは守らなくてはなりません。

当院では9時から17時まで実習、4、50名位の患者を撮影します。私は出来る範囲内で撮影や現像をしたり、一週間交替で院内回診車(ポータブル)で入院患者を撮影して回ります。

X線技術者はX線被曝量測定用バッヂを胸につけて15日毎に線量測定をします。

一般とか単純撮影には造影剤を使用せずに撮影する事で、造影剤を使って撮影するものには気管支、血管、動静脈、胃透視など多数ありますが、この中でX線技師が撮影するものは胃透視です。後期研修ではこの胃透視の事について勉強したいと思います。

技師達もいちいち親切に手とり、足とり教えてくれるわけではありません。技師達がやる事を見ながら覚える、体で覚えると言った具合で、技術を盗むことでした。

主に大阪の人は無関心派で、束縛されたような日常生活で、特に大阪商人は日本でも有名です。

10月7日より11月6日まで奈良県立医科大学付属癌センターに見学に行きました。当センターにはラジオ・アイソトープ、リニアック、ベータトロン、コバルト60、コンピュータ断層撮影、腎臓機能の測定などをやっており、癌の治療を主にやっています。放射線とは写真を撮るだけではなく、色々な癌の治療にも活用される事、特にコンピュータによる遠隔操作、コンピュータ断層撮影などは現在のパラグアイにはまだ普及していませんが、これなどは大変勉強になりました。

奈良医大の人達は親身になって教えてくれ、又は地方に遊びに行く時はたまたま誘ってくれます。奈良、三重市内を見物したり、箱館山へスキーに行ったりしました。

連休を利用して長崎まで行って原爆資料館を拝観しました。そこには原爆で融解された物品等、大やけどを負った人々の写真集、このあらゆる遺品等、資料を見たら放射線と言うものはいかに危険を及ぼすか、つくづくと激痛を感じざるを得ませんでした。

この原爆同様にX線も原爆を弱くしただけで、目には見えずとも常に放射線を浴びていると何年後には後遺症が現われ、脱毛したり、不妊状態、又は生殖不能になったりします。こうして色々な人と馴染み、お世話になりながら前期研修を終わるわけですが、残る後期の半年間は今の今までより、いっそう深く有意義な毎日を、充実した日々で研修に励みたいと思います。

「技術研修を終えて」

榎 本 義 生

国際協力事業団の行なっている移住者子弟研修生の第10回生として昨年春、日本へ来てから研修期間の一年半が残すこと後数日となりました。

パラグアイの自分が住んでいる移住地では永年の大豆、小麦の連作、雨による浸食の為耕地の荒廃が目立ち始め、又穀物の価格の不安定、農機具の高騰によって短期作物では利益が少ない上、地力は年々落ちていくので、これからは牛を導入して表土の流されやすい傾斜地や畑として使えない低地を草地にし、ふん尿を畑にいれ地力を保持していかななくてはならないと考えていた処、事業団で研修生

を募集していたので応募し運良くその機会を得る事ができ、日本で畜産の基礎を勉強することができました。

研修前期は生まれ故郷の佐賀県の畜産試験場で農業大学の学生と共に講義、実習を受けました。2才で両親に連れられて南米へ渡った僕は日本のことは話の上でしか知らない為、研修先へ着くまで不安でした。しかし先生方、現場職員の親切な御指導により1週間も経てば慣れることができました。後期は日本の牛飼いの本場といわれる北海道、又放牧を主体としている場所で農家実習を経験してみたくて、上川町の阪本牧場を世話して頂きました。日本へ来る前の話によると田畑に土壌保善の為堆肥をいれると聞いていましたが現状は違っている様です。前期研修地の佐賀県ではふん尿の処理に困っている畜産農家が数多い様でした。家畜のふん尿を畑に還元することは堆肥舎などの施設、完全に腐熟するまでの期間と手間がかかるので結局は化学肥料を多く使い、その為年々田畑の有機成分は少なくなっているということでした。

北海道の農家実習で得た事は気象条件のきびしい場所で如何にして土地を有効に使いその生産性を高めるかということです。一年の内半年以上を雪におおわれる地域では一年間の勝負は春から短い夏にかけてあるように思われました。パラグアイから見ると日本の農家はうらやましい点があります。農産物価格の保証、農家に対する補助、低利による長期融資など、しかし生産調制、生産コストが高い為安い外国の品物に押されるというように他の国の農業と同じように問題も多い様です。一番感じた事は南米のように開拓する余地がないので経営を拡張する事ができないこと。自分はパラグアイで育ってほんとうに良かったと思います。

当研修で得た事が帰国してすぐ役にたつとは思いませんが、気候に恵まれているパラグアイの土地とこの一年半に学んだ事を力いっぱい活用してりっぱな百姓になりたいと思います。

最後になりましたが、この研修の機会を与えて下さった国際協力事業団、手とり足とり御指導して下さいました佐賀県畜産試験場の方々、阪本さん御一家に厚く御礼を申し上げます。

「前期研修を終えて」

私は畜産、特に肉牛飼育の研修の為に昨年4月初めに父母の国、また自分の生まれ故郷であるが何も知らない日本へ不安半分、希望半分に胸に国際協力事業団の行なっている移住者子弟研修生として日本へきました。

過ぎ去ったこの一年間の前期研修期間をふり返ってみると、まだ幼ない時両親につれられて南米へ行き日本のことを全く知らない自分にとって研修先の佐賀県畜産試験場へ着くまではほんとうに不安でした。しかし試験場の先生方、現場職員の親切な御指導のおかげですぐに慣れることができました。

研修内容は農業大学校畜産専門課程の学生と同様、日課として講義2時間と実習5時間半でした。日本の農業、特に自分がいた佐賀県の場合経営規模が小さくパラグアイとは飼育形態が違うため帰ってから学んだことを全部応用できないと思う。しかし、国土が狭いため日本の集約的農法による単位面積当りの収量の多いこと、肉牛においては一日当たり増体量、肉質の向上を目指して改良を進めていることなど関心させられる。反面日本農業、畜産がかかえている問題点の多いことも知った。生産規模を拡大したくても生産調節の為、牛乳、鶏卵など増産できない。南米では考えられない公害問題、飼料の外国への依存度の高いことなど。公害問題に関してはある農家では利益の半分を糞尿処理に投じているということでした。

実習時には職員の方達と一緒に作業をし、色々と休憩時には雑談をしながら講義では勉強できないことを教えて頂き、ほんとうに有意義に過しました。一番為になったことは家畜人工授精講習会を受講し合格することができたことです。実際にパラグアイへ帰ってから人工授精をすることがなくても栄養状態、環境、ホルモン関係などが繁殖にどういう形で影響するかを知ることができたことは、ずいぶんプラスになりました。

最後になりましたが前期研修期間中に色々と心配、世話を下さった北九州支部の方々、佐賀県庁の方々、佐賀県畜産試験場の先生、職員の方々に厚く御礼を申し上げます。

「研修を終えて」

佐々木 信 孝

家族や友達に見送られてイグアスを立って来たのも、つい昨日の出来事のように思いますが、あれから一年半、一見長いようで短かった内地での研修生活も後数日でピリオドを打とうとしております。

去年の4月14日、私の専攻した畜産の研修は、熊本県立農業大学校附属畜産高等研修所にて、県内から集った30名の若者達と、志一つに燃えて新しい寮生活が始まりました。阿蘇外輪山に連る広大な原野に位置する研修所の回りは、人家一つ見当らず、夏は緑一色、冬は白一色と自然そのものでした。寮の窓からは阿蘇山や九住山が眺められ、なんといっても雪景色が印象的です。

この研修所は作業上肉用牛と乳用牛に別れており、講義や実習を通して畜産経営に直接必要専門科目に重点を置き、それに即応した技術、プロジェクトを中心にゼミナール方式による実験実習及び、畜産農家経営実務などを取り組み、経験豊富な先生方が常時ついていて指導して下さい、又外来を招いての講義もあり充実した研修が出来たと思います。講義の中で、繁殖生理や解剖に興味を持ち、家畜人工授精講習会に合格することが、前期研修の最大の目標でした。1月26日から2月24日まで

の1ヶ月間に渡る家畜人工授精講習会は、寒い、眠い、きつい毎日でしたが、合格の通知を受けた時ほど喜しかったことはありませんでした。

バラグアイを立てて来る時は、肉牛のことしか頭になかったけれど、乳用牛にもたずさわってみて、新めて学ぶ範囲の広さを知り、これこそ牛飼いに必要な基本的なもので、又基礎的なものではないだろうか？と思いました。搾乳に関連すること、乳房炎、哺育に関する事など、肉牛ではじかに体験する機会がなかったかも知れない。この前期研修で酪農に興味を持ち、後期研修にも肉牛と乳牛を希望しました。

後期研修は、岩手県畜産試験場外山分場で肉牛を3ヶ月、現在は本場にて乳牛を研修中です。現場実習を主体とした試験場での研修は実践に即応した知識が得られたと思います。又場外視察にも連れて行ってもらったり、農家実習などもスケジュールに組み入れてもらい、農家の経営状態を、一部だけでも知ることが出来、又色々な人と交流できたことは光栄です。

輸入飼料に依存した日本の畜産経営は、生産コストが高くつき、採算があまり期待できないため、専業農家は自動的に規模拡大を計り、機械体形も整えなくてはならない、そうすれば新に、粗飼料確保の困難、機械や施設の減価償却格が大きいく、又酪農では生産調整もあって、よりいっそう集約的経営が追求されている。この点、バラグアイでの肉生産は、年中放牧のため労働力もいらぬし低コストで済む。一方酪農は肉牛ほど奨励されておらず、乳製品から生牛乳まで輸入品が出回っていたが、近年になって加工場もでき、やっと国産の乳製品もわずかながら出回るようになって来たばかりである。したがって、酪農もこれから奨励されつつあり、農業国であり、内陸国であるバラグアイでの畜産物生産も、将来大きな影響を与えるのではないだろうか？ これまで内地で学んだことが、帰国後の実践に向かないところも、かなりあると思うけれど、これを応用しながら乳肉の増産を夢見て畜産人のほしくれとして前進して行きたいと思います。このような機会を与えて下さいました国際協力事業団の皆様、そして研修先でお世話になった方々には心から感謝いたします。

「前期研修を終えて」

去年の4月14日、南九州支部長の車に乗せられて、午後5時に、熊本県農業大学校附属畜産高等研修所に着きました。その頃は、まだ肌寒く、車から降りたとたんにキューっと身が引き締まる思いでした。

玄関に一步踏み込んでとっさに感じたことは、はたして自分がこの研修所で、寮の規則に従い、日本の研修生とともに机を並べることが出来るだろうか？と、いっそう不安がつるばかりでした。

初めの1~2ヶ月は、寮生活、環境、言葉(熊本弁)に慣れる為に必死で、物事を考える余裕もなく、ただ皆について行くのが精一杯でした。そんな毎日だったので、時の流れも著しく早く感じら

れ、一日千秋の思いでした。

自分の専攻は、肉用牛でしたが、人数の関係で、肉用牛を6ヶ月間やって、残りの6ヶ月間は、酪農に回されました。

肉用牛コースの実習は、4Km離れた甲ノ瀬基地という所で、飼養管理、繁殖とパドック清掃などです。

発情牛の多いある日、「佐々木、種を付けてみんか？」と言われ、先生の指示に従って注入器、ストローカッター、ポリビーカーと水、などを用意してから精液保管器から精液を取り出して、水の入ったポリビーカーに入れて融解します。一通り準備を済ませていざ種付をしなければならぬ//という時に、胸が高鳴るのを覚えました。注入器を口にくわえ、腔鏡を右手に持ち、牛の腔内に差し込んで開きます。その後注入器を子宮外口に、あてがって腔鏡をはずし、肛門から手を差し込みます。先生が横で色々アドバイスしてくれましたが、力みすぎて失敗に終わりました。その時、自分自身が情けなくてしかたありませんでした。

酪農コースに移って1ヶ月目ぐらいには、どうにか自分で付けれるようになりました。

この一年を通して、最もきつかったと思うのは、家畜人工授精講習期間中ではなかったらうか//テキストとまとめ、そしてテキストを何度読んでも分らず、夜遅くまで、本とにらめっこという毎日が続いたので、翌日の早朝当番に起るのがつらく、1ヶ月という日々が一年にも相当するぐらい長く感じられました。きつただけに学ぶことも大きく、この試験を受けて良かったナーと、しみじみ思います。

幸いに良い先生に恵まれ、親切に御指導していただいた為、今後の畜産を経営して行く自信も付き、自分の進むべき道を見つけることができました。お世話になった方々に、感謝の気持ち一杯です。ありがとうございました。

「技術研修を終えて」

野 坂 カオル

1年半の技術研修を終えて今思うことは、なんとあっけない1年半であった事かということです。技術的な事それ以外の事も含めて、かなり爽りある研修が出来たと思う。欲を言えば、1年半の所を2年にしてほしいと思う。

私が勤務先を退職し研修生として応募したのは、いくつかの理由がありましたが、なんといっても自分の生まれた国をひと目見たいという切実なる願望からだった。それにもましてまだ魅力的だった

のは、近年色々な技術、経済とめざましい発展をとげた国日本。数ある技術の中のひとつでも自分のものに出来たら、なんとすばらしいかと思った訳です。幸い勤務していた所が診療所だった事、検査技術に興味があった事、今までしてきたことが無駄にならない最良の方法だと思った事、又これから先も大変重要な医学的分野であることから、これなら自分も出来ると思いました。

最初の半年間は技術勉強するというよりは環境になれることで手いっぱいでした。下宿先、望月医院での仕事は多様で最初は時間的に余裕がなかったことも手伝って大変でしたが、慣れてくると、ただ、こまごまとしているだけで仕事の内容事態は単純で楽なものでした。

生活で不自由することはありませんでしたが日曜日も仕事なので、土曜日の休日を、いっしょに楽しく過ごせる仲間があまり出来なかった事がちょっと残念です。

半年もたったころ後期の研修は下宿先をかえて検査だけを実習するか、それか反対に検査をやめて看護の方だけをするか迷っていましたが、そのどちらにも至りませんでした。結局この二つの分野を切り離して考えられなかったからです。研修が終わってみて検査だけ、みっちり勉強した方が良かったかな？と時折考えますが、今はまだ答が出ません。

1年半研修した事を、帰国して100%活用出来たら幸いです、天と地ほどの技術、設備の開きがある所では色々な面から見て難しいのは目に見えています。全部は出来ないとしても、その一部でも地域の人に役立てられればと思う。

幸いな事は自国(日本、ボリビア)を一方の国から見て今までと違った見方が出来たこと、又このようなチャンスを他のたくさんの人々がこの研修制度をとおして出来たら良いと思う。この研修制度を末長く継続していただきたいと思う。

最後に、無事研修終了できました事、国際協力事業団の皆様深く感謝致します。

「前期研修を終えて」

はやいもので、日本に来てから一年がたちました。この間しごく不安な面持ちで移住センターに着いた時のことを思い出します。研修生仲間も全員多少なりの進歩があったのでしょう。一回目の合同研修会の時見せた焦りの色は薄れ、なんとなく自信に満ちた表情で集まって来た仲間達と談笑しながら、日本に来て本当に良かったと思っています。

研修先での仕事もなんとか慣れ、今では単調な毎日を過ごしています。はじめの半年は、あんなに忙しいと思っていた仕事は今ではそうでもないと感じましたし、愚痴も言わなくなりました。又その反面、慣れとは恐ろしいものだと思うようにもなりました。ひとつの例をとって見て食べものはその中で最も痛切に感じます。贅沢になりすぎて、ありがたみを感じなくなったことです。日本に来る前は比較的好き嫌いもなかったのですが、一年たった今、文句を言ったり、ちょっとはしを付けただ

けでゴミ箱に平気ですてたりとか、まったくもってふとどきな事をするようになりました。

贅沢癖がついた今、ボリビアに帰っての生活が大変だなと思っています。

今回、私にとって最大の研修収穫は人一倍時間にルーズだったのをなんとか克服できたことです。これは耳にタコが出る位聞かされたことなので本当に良かったと思っています。

検査実習は、血液学をはじめ、生化学、病理、細胞診、細菌学、尿一般、生理学を1ヶ月ずつまわり、今は復習の意味で各科目を2ヶ月ずつ研修させてもらいます。主に実技で、理論は自分で本を見て勉強します。理論は覚えてもすぐ忘れてしまうので、あと半年は本をもっと読もうと思っています。

人間関係は比較的うまくいっています。

残念なことは仕事柄友人が出にくいことです。年配の方達との仕事や、日曜日にも仕事があることなどで、同年の友人がいません。これは日曜日の仕事が災しているのだと思います。皆が休む時仕事をし、又反対に自分の休みの時皆が仕事をしているというのがほとんどです。友人といえばほとんど同業者に片よりがちですし、あまりおもしろみがないような気がします。そんな理由で、ひょんな時入学した英語のクラスは刺激のある、楽しいものになりました。色々な国へ行く人とか、行って来た人、外国人の先生、日本人の先生と友達のようにしていますが、皆が旅行する時など、まず参加できないので残念です。それでもパーティなどは、自分から進んで参加するようにしています。

この一年間はざっとこの調子でしたが、残りの半年は、もっと積極的に行動しようと思っています。5月には全国医師学会が静岡で開かれるらしいが、私も見学につれてもらえそうです。残り少ない日々が、ますます忙しくなるようで、喜んでいいのやら……。

とにかく病氣しないよう程々にがんばるつもりです。

「研修を終えて」

水 島 琢 磨

私の生まれ故郷である日本に来るのは小さいころからの夢でした。

現在居住しているサンファン移住地は、国際協力事業団が農業の分野において、ボリビアにも技術者を派遣したりして多くの関わりがあり、事業団が10年ほど以前から日本への技術研修生を受け入れていることを知っていたので、機会があったらぜひ日本へ行きたいと思っていました。

それでモンテロにある農業高校を卒業後、移住地にある事業団の農業試験場に入って、1年間農作物の栽培技術のレベルをあげるための勉強をしました。そのかわり日本語の勉強をもう一度やり直して、第10回の移住者子弟技術研修生の試験を受けたわけです。

サンファン地区は農業の中でも養鶏が一番盛んな地区で、自宅でも7千羽の採卵鶏を飼っています

ので、日本での研修ももちろん養鶏を希望したわけですが、中でも、雌雄鑑別師はよその国から派遣されている人はいても、ボリビアの国としてはゼロに近いので、この技術を修めて帰ってボリビアの養鶏の発展に役立てようと考えたわけです。

桜の花咲く日本へ着いたのが4月5日。横浜での一週間の研修は日本での生活のやりかたでした。お金の使いかた、汽車の乗りかた、日本の歴史などです。

岡山県に親戚があったので、研修地は岡山を選びました。最初の8か月は岡山県養鶏試験場に配属され、岡山農業大学の学生3人と一語に寮生活が始まり、研修の第一歩を踏み出しました。最初のうちは漢字と専門用語がほとんどわからず、先生にふりがなをつけてもらったりしてほかの学生に迷惑をかけてしまいました。

試験場で習ったことはいろいろありますが、その中でも特に病気については新しい知識を身に付けました。というのも、ボリビアで発生する病気は、ニューカッスル病、マレック氏病、鶏痘、伝染性コリーザぐらいのもので非常に限られていますが、日本ではおおげさにいえば何十種類という病気があるからです。試験場という所はデータを集めて分析するのが主な仕事ですから、その記帳とか分析とか統計の方法はたいへん参考になり、ボリビアへ帰っても早速応用できると思いました。

また試験場の実習として民間の畜産農家にも数軒行き、1～2週間泊まり込んで鶏を飼ったり牛を飼ったりしました。

養鶏試験場の研修を終えて一番の収穫は、やはり病気のことですが、病気は目で見えないので防疫のたいせつさを身にしみて感じました。

日本での初めての正月を親戚や友人の家で過したのち、1月12日県北にある株式会社初岡ふ卵場へ行き、いよいよ最大の目的である鑑別の研修に入りました。

ここにはたまたま宮崎県から大村君という研修生が来ていたので、彼と二人で共同生活に入りました。今まで自炊生活の経験がなかったので非常に不安でしたが大村君が米の炊きかたから、料理の仕方までていねいに教えてくれたため、彼が4月になって研修のため岐阜県のふ卵場へ移ってから私一人になってしまいました。彼にはたいへん感謝しています。

初岡ふ卵場では一週間に火曜日と金曜日にヒナの発生があり、一回に4万5千羽出ます。午前4時ごろから専門の鑑別師4人が来て午後3時ぐらいまで一心不乱に仕事をします。

最初に教わったことはヒナの掴まえかたです。鑑別しやすいように同じ方向に同じ角度でヒナを手の中に固定しなければならないからです。それを一か月続けて次にいよいよ鑑別に入るわけですが、始めはメスは見させてもらえません。とにかくオスばかりなのです。それはオスというものはどういふものかを頭にたゞきこむためだからです。それが約一か月続いて鑑別の勉強を始めて2か月経ってやっとメスの鑑別に入らせてもらいました。ふつう、専門の鑑別師は百羽の鑑別をするのに4～6分ぐらいかかっているようです。私の場合は最初は15分ぐらいかかっていたのですが、なれるにしたが

って最近では6分ぐらいでできるようになりました。それとたいせつなことは、鑑別間違いのないことです。いくら早くできてもオスとメスを間違えたら何にもならないからです。私も最初のうちは百羽を鑑別するのに十羽前後も間違いがありました。最近では六百羽を鑑別して1羽か2羽の間違いだけで済むように進歩しました。鑑別は、限られた時間で羽数をこなさねばなりませんから本当にたいへんな仕事です。日本でも若い人が鑑別の勉強をしたがらない傾向にあると聞きましたが、一級の鑑別師になるには約5年もかゝるそうですから無理もないことだと思います。けれども、私はせっかく日本へやってきて、この根気のいるむづかしい仕事に取り組み始めたわけですから、何がなんでもプロといわれるまで努力したいと決心しています。

そのために11月に鑑別師の試験があつてどうしても受けたいので、9月一杯で事業団の研修が終わるわけですが、特に無理を聞いていただいてあと半年鑑別の勉強を続けることになりました。

一年半があつという間に過ぎてしまいましたが、爽りの多い研修生活をすごすことができました。これまでこられたのも、私を暖かく指導して下さいました国際協力事業団の方々、養鶏試験場の先生方、また初岡ふ卵場の社長様を始め社員の方々、鑑別師の方々のおかげであつたと深く感謝しております。あと残された6か月を全力投球で頑張り、身につけた知識と技術をみやげとしてポリビアに持って帰りたいと思っております。本当にありがとうございました。

【前期研修を終えて】

今までの一年間の研修をふりかえって見ると、これまでに色々なことに、自分の体で、感じたことは、人に会い話をしてなによりもの私の力になりました。

私たちのあこがれであつた日本に入国した時は、つい昨日の日のことのように早くも一年が過ぎてしまい、今、思いだすと入国したときは、皆、おなじように不安な気もちでした。こちらで人々の生活にどこけみ物を見て、聞き、自分のためになるものを、身に付けるよう心がけていました。

昨年12月までは、岡山県の養鶏試験場にお世話になり、養鶏に対しての基礎的なことは、全部私の体であじわいました。養鶏試験場には、9ヶ月お世話になり、今年の1月から、岡山県の初岡解卵場にお世話になっています。自分で自炊して、一番こまるのは、寒いことでした。朝起きて見ると、水は、凍り、水道は出なくなり顔を洗う時も、痛烈な日々を過ごしました。朝は、マイナス15度にもなり、今までこんな日々を過ぎて来たが、始めて送った日本での生活は、当初は、ずいぶん甘い夢を見たものだが、現実には、厳しいものだと痛切に思う今日であります。人は、それぞれ想像するのですが、20歳前後の者の考えることと言え、若さまの出しに行動するものだと思います。

今日の初岡解卵場での生活は、きびしい毎日ですが、私にとってなによりもの最高の勉強になっています。それに一人暮らしは、自由でその一夜と言うと私にとって気やすめの時間でもあり、会社の

人達と、時々、車で連れて行ってもらっています。

仕事の方は、火と金曜は、朝は、3時に起きて、雛を拾って夕方6時まで、それからは、僕の時間になり12時～3時ごろまで、雛を見ている。遅れましたが、今、僕が研修をやっているのは、雛の鑑別の勉強をやり、雛が出ない日は、現場に行き、鶏のワクチンを、射ったり、色々なことをやっています。

あまり忙しくない日は、会社の人に付いて所々に鶏の勉強をしにっています。ほかにいろんな会社にも顔を出しています。でも私にとって、あまり時間がないので、のん気には、かまえては、いられません。これからの研修は、自分の出来るかぎりのことをやって日本でやったことは、悔がなかったと言えるように頑張ります。これからもあと一年、延ばしてもらい、私のわがままを許してもらい、ありがとうございます。

「技術研修を終えて」

幸 地 悦 子

夢と希望に燃えて両親の祖国で技術研修を始めてから早くも一年半の歳月が過ぎようとしています。去年の3月30日家族、友達に見送られて日本へと旅立ってきました。成田空港に着いた時はまだ肌寒く、暑いボリビアから来た私には真冬の様に思えました。あれから春、夏、秋、冬、そして二度目の秋を迎えながら、私達の研修が終えようとしている。

日本に来た当時は生活様式、習慣等がボリビアとは異なり、とても戸惑い、また不安でもありました。けれども研修先の皆様方の暖かい心と御支援によりまして、その戸惑いや不安もなくなり、立派な成果をあげられたと思います。

海外移住センターでの最初の研修を終え良く附れた4月14日、私は東京羽田空港から研修先の沖縄へと向かいました。那覇空港には沖縄支部の方、親戚の方が迎えに来てくれました。なかでもおばあちゃんとおばさんの懐かしい顔を見た時の感激は言葉ではいい表わせないくらいでした。あの時、初めて自分が日本に来たという実感がわきました。

その翌日から、いよいよ沖縄県読各村農協で研修が始まりましたが、なにせ農協の仕事については何一つ経験がなく、たいへんこまりました。これではいけないと思い、沖縄支部に相談し、沖縄市の経理学校に通うことになりました。そこである程度簿記をマスターできたので、農協の仕事の取り扱いも少しわかるようになりました。約半年間は午前中は経理学校へ通い、午後から農協へという調子でした。残りの約半年間は農協での研修が一日となりました。その頃には伝票の記入や残高試算表の作

成ができるようになりました。研修を終える頃には決算整理までも研修しました。ここまで学ぶ事ができたのは農協組合長初め、職員の皆様方のおかげだと感謝しております。

前期一年の研修を終えて、後期の半年は東京農業大学農業経済学科に研究生として入学しました。そこまでは主に農業経営学及び農学簿記を専攻し、講義への出席と同時に、日本の農業の理解に努めました。また入学と同時に農業経営学研究室に入室しました。この研究室は自由に使わせていただき自分が思う存分勉強できた場所でした。その上、松田先生、新沼先生初め大学院の皆様方には学校のこと、研究のこと等についていろいろと親切に教えていただきました。また松田先生のおかげで希望していた農家実習を北海道の網走にて行なうことができ、日本の農業を知る上で大きな参考となりました。ここでは、農家に泊まり、農協での研修、農家での実習（ビート畑の除草）をそれぞれ2日間行ないました。期間としては短かったのですが、その間の収穫は非常に大きなものがありました。この半年の間に大学での研究を行なうと同時に、日本の農業を直接見ることができたことはたいへん幸せだったと思います。

今後は、これまでに身に付けた事を基礎として次の壁に当たって行きたいと思います。

帰国してからも日本で知りあった人達との交流を大切にし、移住地の農業経営者や農協の諸先輩の豊富な経験による御指導を受けながら日本で得た知識を精いっぱい活用して生きてゆきたいと思いません。

多くの人達の暖かい御支援と御協力によりこの素晴らしい研修も今日で終了できることになりました。私にとってこの一年半の研修は、悔いのないものとなりました。

振り返って見れば、一年半と言う月日が過ぎ去ろうとしている事がうそのように思われます。この研修は楽しかった事より、つらかった事、くやしかった事、みじめだった事の方が多く様です。でも私にとってはいい人生経験であったにちがいません。この研修期間のすべての出来事が私の良き思い出として心に残ると思います。

最後に研修期間中終始見守って下さいました国際協力事業団の皆様、ならびにご指導下さいました研修先の方々に、心から御礼申し上げます。

どうもありがとうございました。

「合同研修会に参加して」

9月の半ば頃国際協力事業団沖縄支部から合同研修会の日が決定したという知らせを聞いた時、なんとも言えないほどの感激でした。それでさっそく農協の組合長さんに休みの許可を取りに行くと、組合長さんが早や半年にもなったのか、とおっしゃいました。

私は皆に会うのが待ちどろしくて、一日一日近付いて来る日を毎晩カレンダーを見て、あと何日で

行けると言う事がとても楽しみでした。そして明日、皆に会えると言う晩は落ち着きがなくて失敗が多かった。

9月30日いよいよ待ちどうしかった日がやって来た。私はバスで郡八まで出て沖縄支部に飛行機の切符を取りにいきました。出発の時間にはすこし早かったので、具志堅さんを迎えていっしょに空港へ行き、12時20分全日空の飛行機で2時間の旅で東京に出発しました。羽田空港でぐうぜんボリビアの友達と会って話に夢中になって、けっきょく横浜移住センターに着いた時は6時でした。6ヶ月ぶりに移住センターについた時は、なんだか自分達の兄弟と会えるような感じだった。集合時間の7時までにはみんなそろって合同研修会の日程表の説明を聞き、その後は自由時間で半年ぶりにあった仲間達と日本の生活に慣れるまでに困ったことや失敗談、生活状況などをなつかしい故郷のスペイン語やポルトガル語を思うぞんぶんに使って、夜おそくまでつきることなく話しあったのです。

10月1日個人面接等や反省会などを終って、19時30分からは9回生の懇親会が行なわれました。先輩達がいろんなことからりこえて来た事には感心しました。

次の日、午前中は9回生との討論会がありました。そこで自分達の研修状況やいろいろな事を話し、経験者の先輩達からアドバイスを受けました。

10月3日私達10回生は、東武浅草経由鬼怒川へ出発しました。鬼怒川へ行く途中、浅草で昼食、見学などをした後6時鬼怒川に着きました。背みがかかった岸辺の岩と激流の鬼怒川をはさんだ川岸のせまい景勝地にホテルが密集して立ちならんでいるその中のすばらしい一心館ホテルで泊り、次の日、朝、観光バスにのって日光へむかった。ガイドさんの説明を聞きながら道の両側に樹齢を重ねた杉並木がみられ、そこからバスが男体山に登って行く、いろは坂という道路は急カーブが30もあり、だんだん登って行くと山は秋の美しい紅葉で自然にあふれ、さわやかな空気も胸いっぱい吸うことができました。

日光は男体山の古い呼び名である二荒山をニコウと音読みして、さらに日光となったものといわれているそうです。又は山岳、湖沼、高原、溪谷、森林、瀑布といった大自然の美しさと、東照宮、輪王寺、二荒山神社等、人工美の粋を極めた建築物が見事に調和して、自然美と人工美とすばらしいコントラストの妙を発揮しているところに特長があるそうです。一日の日光観光がぶじ終わって6時ごろ旅館に着きました。夕食後、夜の日光を散歩し、それから今夜が日光や合同研修の最後の夜ということでみんなで話し合いをしました。

10月5日最終日、5日間の合同研修がぶじおわり、午前8時30分日光駅にいき、上野へ出発しました。そして12時上野駅で解散し、又4月に会う機会を楽しみにして仲間達とわかれて自分達の研修先へ帰った。日本の有名な日光を見物できたことはたいへん良い思い出になります。それから仲間達といろいろわからない事などをいっしょに力を合せて5日間の研修がたのしくすごせることができました。

「日本で18ヶ月の経験」

秋 山 ファン

日本に来る前一年間ぐらい日本語の勉強しました。けれども、日本に着いたときあんなに勉強したのに足りなかったと思います。ほとんど分かりませんでした。

着いてから横浜の高等職業訓練校に入って自動車整備を勉強しました。日本人と同じように、じゅぎょうを受けましたので初めは全然分かりませんでしたが、ときが経つにつれて分かり出しました。

この訓練所に自動車の基礎知識を教えてください、ブレーキけいとう、サスペンションけいとう、エンジンけいとう、回転機とサキットテストの見方、ガスようせつを教わりました。

授業を受けたときはほとんど分かりませんでしたが、実習してだいたい分かりました。どうきゅうせいも先生がたまみんなに親切に教えていただきました。

どうきゅうせいと一緒に車よう修理工具の見本を見に行きました。色々使って見たいべりな工具がたくさんありました。この訓練校にいる間、運動会とバドミントン大会に出てたいへん楽しみました。

春休みをりようして浜松の本田工場に行つて来ました。そこで見たものはオートバイや、ウォーターポンプや発電機などの組立てです。おどろいたのは、女の人が組み立て工場で働いていることでした。聞いて見ると男の工具が足りないから女の人が働いているのでした。

今年の4月ごろ後期研修のために千葉市に移りました。千葉トヨタ株式会社に入って初めは車検部に研修させていただいて、いろいろなことを学びました。ブレーキの取り替えとかエンジン調せいとか、クラッチ調せいとかでした。

5月になって新入社員と一緒に車の点検の正しいやりかたを教えてください。6月から9月までずっと定期検査部に働かせていただいて、そこで学んだことはエアコンの取り付け、タベット調せいでした。それにまえに学んだことも実習しました。

夏休みに富士山に登ったり、祭に出たり、海水浴に行ったりしました。お寺や神社を見るのは大好きで京都と奈良へ行つて来ました。楽しい夏でした。青森で行なつた合同会、天気が悪くてハイキングしているとちゅうで雨に降られて、びしょびしょになってしまったので、外へあまりでかけませんでした。しかし旅館で色々なことを話したり、ミニ運動会をしたりしました。忘れられない合同会でした。

春は桜、夏はせみ、秋はあかとんぼ、冬は雪。日本の春夏秋冬もいい思い出になりました。

ベルーへ帰つて自動車整備も日本語も勉強を続けます。覚えるのは大変でしたが、そういう訳ばかりでなく自分のためにも続けようと思つております。

国際協力事業団の皆様、大変お世話になりました、ありがとうございました。

「前期の研修を終えて」

日本についたとき一番心配ごとは日本語でした。もう来て一年ですが、まだ色々分からないことは出て来ます。この心配ごとは時がすぎるにつれて消えてしまいました。まだまだですが。

僕はむこうにいるときは、日本の習慣がどんなかわからずに、こちらにきて生活をして見ると、こちらの習慣が体に、しみじみ感じました。現在、ペルーでは僕のかぞくもほかの日本人の人も一部は日本の習慣がありましたが、でも日本の生活とはちがいます。

こちらについてから横浜の訓練校に入り、はじめの3カ月は、きそって皆べんきょうばかりで、朝はこうぎをうけて、昼からは現場にいき、という毎日でした。はじめはさっぱり分りませんでしたが出時がすぎるにつれて分りだしました。全部は分りませんでした、先生とか僕といっしょにいた学生から日本語について色々教えてもらいました。

日本のれきしをしるために、ひまなときにははくぶつかんなどに行って、それによってだんだんと日本のことについて分って来ました。

春休みをりようして浜松の本田の工場に行ってきました。そこで見たものはオートバイ、ポンプ、発電機の組立と、おどろいたのは女の人が組立工場ではたらいていることでした。あとで分ったことは男のこういんが、たりないから女がはたらいているのでした。

この一年間に日本語があまり分らなかつたけど、いろんなことを学び覚えました。覚えたことを、かえってからおおいに役に立てたい。

子弟研修生一覽表

第10回 移住者子弟技術研修生

支 部	地 区	氏 名	年令	本籍地	研修職種	研 修 機 関 名
リオ・デ・ ジャネイロ	フンチャーレ	山 口 哲	23	長 崎	蔬菜栽培 ・経 営	農家実習
サンパウロ	ロンドリーナ	村 上 竹 男	28	福 岡	養 蚕	国際農友会
	イビウーナ	清 水 信 良	18	東 京	果 樹 (リンゴ)	長野県農業総合試験場
	パルゼアアレグレ	秋 枝 修	21	山 口	電 気	(株)トミナガ電機
ベレ ー ン	エフイゼニオ サーレス	木 場 孝 一	31	鹿 児 島	農協経理 農業機械	西合志町農業協同組合
	トレゼ・デ・ セテンプロ	黒 田 孝 一	27	熊 本	蔬菜果樹 ・病 理	熊本県農業試験場園芸支場
	第2トメアスー	矢 内 長 徳	23	青 森	重機整備	キャタピラー三菱(株)西興東支社
ブエノス アイレス	ガルアペー	松之下ロベルト	22	鹿 児 島	果樹(桃 ・みかん)	沖縄県農業試験場名護支場
アスンシオン	アルトバラナ	渡 辺 信 夫	25	広 島	レントゲン 検査技術	桜橋渡辺病院
	フ ラ ム	榎 本 義 生	27	和歌山	牧畜・土 壌 保 全	農家実習
	イ グ ア ス	佐々木 信 孝	21	岩 手	畜 産 (肉牛)	岩手県畜産試験場
サンタクルス	サンファン	野 坂 カオル	24	長 崎	臨床検査 技 術	望月産婦人科医院
	"	水 島 琢 磨	21	岡 山	養 鶏・ 養 雛 鑑 別	(株)初岡卵卵場
	オ キ ナ ワ	幸 地 悦 子	20	沖 縄	農協簿記	東京農業大学農学部 農業経済学科
リ マ	リ マ	秋 山 フアン	26	ペルー	自 動 車 整 備	千葉トヨタ自動車(株)

研修機関（後期）一覧表

郵便番号	所在地	代表者名	電話番号
835	福岡県山門郡瀬高町大字文広583	井上善夫	09466-2-3632
382	長野県須坂市大字小河原492	浜島直己	02624-6-2411
751	山口県下関市赤間町3-41 アサヒビル	本幡昌義	0832-23-1381
861-11	熊本県菊池郡西合志町野々島4793	上田幸則	09624-2-1163
862	熊本県熊本市尾の上1-39-5 森義博方	森義博	0963-81-3040
192	八王子市大和田町1-8-22 キャタピラー三菱㈱八王子寮	堀米貞一	0426-42-4637
905	沖縄県名護市名護4605-3	比嘉武吉	09805-2-2811
530	大阪市北区梅田2-4-32	渡辺修治	06-341-8651
078-17	北海道上川郡上川町旭ヶ丘	阪本辰男	01658-2-1982
020-01	岩手県岩手郡滝沢村大字滝沢第20地割 字砂込390	淵向正四郎	0196-88-4326
410	静岡県沼津市共栄町7-2	望月良夫	0559-22-0800
719-32	岡山県真庭郡久世町大字富尾755	初岡太郎	08674-2-0616
156	世田谷区桜丘1-1-1	鈴木隆雄	03-420-2131
260	千葉市登戸町2-140	島海一郎	0472-41-8111

第9回移住者子弟技術研修

支部	地区	氏名	年齢	本籍地	研修職種	研修機関名	郵便番号
サン・パウロ	グアダバラ	大津 敏一	21	茨城	養 蚕	株式会社愛鶏園の玉子	311-34
	イビウーナ	林ルイス 伸明	19	(高知)	植物病理	高知県立農業大学校	781-21
	ピリチーパ・ミリン	菅野 弘	23	福島	TV修理	東京芝浦電気株式会社	221
ベレーン	グアマ	吉野 ベドロ 謙	20	(宮崎)	農業機械	都城農業協同組合 中央農機具整備センター	885
	ポルト・ヴェリヨ	須藤 グロリア	23	(福島)	生活改善	福島緑ヶ丘学園 福島ドレスメーカー専門学校	960
リオ・デ・ジャネイロ	フンシャル	小松 滋	24	北海道	果 樹	沖縄県立 農業試験場名護支場	905
ポルト・アレグレ	ペロッタス	横山 隆	32	北海道	畜 産	熊本県立農業大学校付属 畜産高等研修所	869-23
アスンシオン	イグアスー	上田 時江	26	広島	助産婦	社会福祉法人 聖霊会聖霊病院	466
	"	菅野 忠	26	秋田	養 鶏	株式会社後藤卵場	500-91
	アルトパラナ	村尾 健朗	24	鹿児島	機械修理	株式会社MSK東急機械	362
	フラム	松尾 あけみ	21	(高知)	看護婦	土佐准看護学院	780
ブエノス・アイレス	ポンテ・ベドラー	重永 智平	26	山口	バラ栽培	横山バラ園	254
サンタ・クルス	オキナワ	長嶺 マリオ	22	(沖縄)	電 気	株式会社北越工業	157
	"	具志堅 るり子	20	(沖縄)	看護婦	社団法人那覇地区医師会 那覇高等看護専修学校	900
	サンファン	米倉 美智也	22	長崎	旋盤溶接	長崎金属工業協同組合 (有)秀工社	854
	"	深浦 伸明	23	長崎	養 鶏	福岡県立農業試験場	818
リマ	リマ	森崎 エリザベス	19	-	花卉園芸	(農家実習)	257
	"	丸山 ロベルト	24	-	車輛整備	株式会社ナガセ	860

生研修期間（後期）一覽表

所在地	帰国後の連絡先
茨城県東茨城郡小川町千楽1050	CEP 14100 Caixa Postal 1337 Ribeirao Preto Estado de Sao Paulo BRASIL
高知県吾川郡伊野町波川234	A/C C.A.C. COOP 1130 CEP 18140 Ibiuna Estado de Sao Paulo BRASIL
横浜市神奈川区新子安2-14-10 東芝新子安寮	CEP 08700 Caixa Postal 153 B.Centro Mogi das Cruzes Estado de Sao Paulo BRASIL
那城市都北町5710	CEP 66000 Trav Maurite № 3515 Bairro do Marco Belem Para BRASIL
福島市山居上3	CEP 78900 Caixa Postal 237 Porto Velho Rondonia BRASIL
名護市名護4605-3	CEP 28680 Caixa Postal 54 Fazem Funchal Cachoeiras de Macacu Estado do Rio de Janeiro BRASIL
熊本県阿蘇郡阿蘇町大字西湯浦1454	CEP 96100 Caixa Postal 383 Perotas Estado do Rio Grande do Sul BRASIL
名古屋市昭和区川名山町56	Caixa Postal 153 Foz do Yguazu Estado do Parana BRASIL
岐阜市西野町7丁目	Casilla de Correo № 2036 Cerro Cora 1114 Asuncion PARAGUAY
上尾市平塚字塚越2384-1	Casilla de Correo № 64 Encarnacion PARAGUAY
高知市山端町7 細木病院内	Casilla de Correo № 38 Encarnacion PARAGUAY
平塚市田村3053	Casilla 45 Oeste Av. Corrientes 4062 Buenos Aires ARGENTINA
東京都世田谷区北烏山9-23-14	Casilla № 590 Santa Cruz BOLIVIA
那覇市東町2601	Casilla № 582 Colonia № 1 Santa Cruz BOLIVIA
諫早市貝津町工場団地	Casill № 464 Santa Cruz BOLIVIA
筑紫野市大字上古賀232	Casilla № 464 Santa Cruz BOLIVIA
桑野市下大規1304	General Garzon 2344 Jesus Maria Lima PERU
熊本市世安町361	Jiron Pastaza № 764 Interior 101 Brena Lima PERU

第 8 回 移住者子弟技術

支部および地区名		氏名	年齢	本籍地	研修機関	研修機関名	郵便番号
リオ・デ・ジャネイロ	フンシヤール	今村真一	22	福岡	畜産	福岡県種鶏場	818-01
サンパウロ	サンパウロ	林田秀房	23	(熊本)	油圧技術	太陽鉄工㈱	533
	サンパウロ	百合正夫	27	(愛媛)	果樹園芸	長野県農業総合試験場	382
	クリチーバ	高橋アリ富	25	(福島)	養魚孵化	石川県増産試験場	926-02
	モジ・ダス・クルーゼス	田中勝彦	22	香川	食用作物	熊本県農業試験場園芸支場	861-11
ベレーン	マナオス	高野裕弥	25	北海道	自動車修理	苫小牧専修職業訓練校	053
	グアマ	横山富貴子	22	宮崎	生活改善	日本高等国民学校	319-03
ポルト・アグレ	イタブアン	道田藤吉	20	熊本	果樹園芸	熊本県果樹試験場	869-05
	ラーモス	岩崎正基	22	山口	果樹園芸	岡山県農業試験場	709-08
アスンシオン	アマンバイ	中島義明	29	熊本	農業機械	神奈川県立農業大学校	243-04
	フラム	松岡健	18	高知	農協運営	福岡県農業協同組合講習所	813
	アルト・パラナ	石原由起	17	(兵庫)	医療	聖ヨゼフ病院准看護学院	238
フェノス・アイレス	ガルアペー	山田陽二	29	広島	花卉園芸	赤塚植物園	514-22
サンタ・クルス	サンフアン	近藤勇	18	(新潟)	畜産	農林省千勝種畜牧場	085-05
	サンフアン	山口政雄	19	長崎	農業機械	長崎高等職業訓練校	859-06
	オキナワ第1	具志堅進	22	(沖縄)	農業機械	具志川専修職業訓練校	904-22
	オキナワ第3	中村安栄	24	沖縄	電気工事	具志川専修職業訓練校	904-22

研修生研修機関一覧表

所在地 / 帰国後の連絡先
福岡県筑紫郡太宰府町大字太宰府 / CEP 28680, Caixa Postal No.21, Fazenda Funchal, Cachoeiras de Macaco, Est. do Rio de Janeiro Brasil
大阪府大阪市東淀川区北江口町4番地 / CEP 04130, Av. Camilo Castelo Branco No.54, Vila Gumercindo, Sao Paulo Capital, Brasil
長野県須坂市大字小河原492 / CEP 18190, Rua José Braga Sobrinho No.157, Pilar do Sul, Est. de Sao Paulo, Brasil
石川県鹿島郡能登島町字曲 / CEP 86280, Caixa Postal No.147, Uraí, Est. do Paraná, Brasil
熊本県菊池郡西合志町須屋2450 / CPE 08700, Caixa Postal No.1, Mogi das Cruzes, Est. de Sao Paulo, Brasil
北海道苫小牧市日吉町3丁目4番の1 / Av. Tarumã No.422, Manaus, Est. do Amazonas, Brasil
茨城県東茨城郡内原町1497 / No.3515, Bairro Niarcos, Belem, Para, Brasil
熊本県上益城郡松橋町豊福2566 / CEP 90000 a/c Comercial Agricola Semeagro Ltd. No.425, Rua Vitor Valpirio, Bairro Anchieta Porto Alegre, Est. do Rio Grande do Sul, Brasil
岡山県赤松郡山陽町神田沖1174-1 / CEP 89520, Caixa Postal No.161, Curitibaanos, Est. de Santa Catarina, Brasil
神奈川県海老名市杉久保2006 / a/c Coop. Amambay, Caixa Postal No.128, Ponta Pora, Est. de Matto Grosso do Sul, Brasil
福岡県福岡市東区大字名島2751-38 / a/c Cooperativa La Paz, Casilla de Correo No.4, Encarnación, Paraguay
神奈川県横須賀市緑が丘28番地 / a/c Agencia de Cooperación Internacional del Japon, Casilla de Correo No.38, Encarnación, Paraguay
三重県津市高野尾町1868の3 / Colonia Lujan Garuhape, Provincia de Misiones, Argentina
北海道河東郡音更町字中音更 / Casilla de Correo No.464, Colonia San Juan, Santa Cruz, Bolivia
長崎県西彼杵郡長与町高田郷 / Casilla de Correo No.464, Santa Cruz, Bolivia
沖縄県具志川市字兼箇段1945番地 / Colonia Okinwa, Casilla de Correo No.582, Santa Cruz, Bolivia
沖縄県具志川市字兼箇段1945番地 / Casilla de Correo No.262, Santa Cruz, Bolivia

第7回移住者子弟技術研修生

支部および地区名	氏名	年齢	本籍地	研修職種	研修機関名
リオ・デ・ジャネイロ	バルバセーナ	市来 清文	27 宮崎	花卉園芸	美香園
サンパウロ	ロンドリーナ	高橋昇ジュリオ	27 (北海道)	養蚕	群馬県蚕業試験場
	イタベチ	土生 誠一	26 宮城	花卉園芸	株式会社小池硝子店
	サンパウロ	樋口 寛	26 熊本	建築施工	戸田建設株式会社
	"	服部ロウレンソ	23 (秋田)	電話交換機工事	日本通信建設株式会社
	スザノ	上西川原 猛	29 鹿児島	自動車修理	千葉トヨタ自動車株式会社
ベレーン	サンタ・イザベル	三宅 正剛	24 長崎	自動車修理	長崎県交通局中央自動車整備工場
	ポルト・ベリヨ	服部 元	26 東京	農協経理	熊本県信用農業協同組合連合会
レシフエ	サルバドール	平田 繁実	22 長野	電気工事	有限会社 梅本電設
アスンシオン	エンカルナシオン	荒横 文彦	24 広島	食油精製	日清製油株式会社
	ラ・コルメナ	三井 昭	30 長野	果樹園芸	功刀幹治(方)
	イグアス	佐藤 満	21 岩手	農協経理	住田農業協同組合
ブエノス・アイレス	ウルキツサ	西田 克己	25 長崎	花卉園芸	藤田侃司(方)
	ヘネラルパチエコ	光田 友宏	25 (愛媛)	花卉園芸	永田洋蘭園
サンタ・クルス	サンフアン	上野 克之	22 長崎	養鶏	石田鉄工株式会社
	"	川上 啓介	20 長崎	畜産	農林省十勝種畜牧場
	オキナワ第1	安里 マルヒロ	21 沖縄	養鶏	沖縄県家畜衛生試験場
サント・ドミンゴ	レモンデ・ジウナ	川代 康夫	24 北海道	畜産	農林省十勝種畜牧場

研修機関一覧表（後期）

郵便番号	所在地	代表者名	電話番号
732-22	広島県佐伯郡大柿町大原	長坂五郎	082357-2204
371	群馬県前橋市総社町総社2326-2	岡部光波	0272-51-5145
989-02	宮城県白石市字沢目6番	小池宗次	02242-6-2376
104	東京都中央区京橋1丁目3番地 新八重州ビル	戸田順之助	03-562-6111
108	東京都港区高輪3丁目23番14号	津重正	03-447-2111
280	千葉県千葉市登戸町2丁目140番地	島海一郎	0472-41-8111
854	長崎県諫早市貝津町1481	平井寛	09572-6-1642
860	熊本県熊本市南千反畑町2番3号	吉永淳	0963-55-6345
860	熊本県熊本市清水町万石6番地	梅本明助	0963-44-2323
235	神奈川県横浜市磯子区新森町1番地	大島政志	045-751-1281
400-02	山梨県中巨摩郡白根町西野2854	功刀幹治	05528-2-2557
029-24	岩手県気仙郡住田町下有住字十文字	佐藤博	01924-8-2311
673-02	兵庫県神戸市垂水区平野町福中147	藤田侃司	078-961-2101
472	愛知県知立市牛田町芋畑1番地	永田一策	0566-81-0041
498	三重県桑名郡木曾岬町東見入	石田昭三	05676-5-1155
080-05	北海道河東郡音更町字中音更	中園信善	015597-31-2
902	沖縄県那覇市古波蔵112	上里宣治	0988-32-1515
080-05	北海道河東郡音更町字中音更	中園信善	015597-31-2

第6回移住者子弟技術

支部および地区名	氏名	年齢	本籍地	研修職種	研修機関名
(リオ・デ・ジャネイロ)	イタグアイ	畠山幸枝	26 (石川)	生活改善	宮城ドレスメーカー専門学校
(サンパウロ)	モジタス・クルーゼス	米村隆一	20 (熊本)	花卉園芸	熊本県農業試験場園芸支場
	ロンドリーナ近郊	大塚由起子	25 熊本	生活改善	宮城ドレスメーカー専門学校
	グアタバラ	高橋定次郎	26 山形	畜産	山形県立農業経営大学校
	日光	竹田和夫	27 高知	農業機械	神奈川県農業大学校
(ベレーン)	グアマ	米川洋二	27 熊本	畜産	安達養鶏場
	ベラビスタ	喜納清美	21 (大分)	農業機械	北海道フォードトラクター(株)
	第2トメアスー	四元敏夫	24 宮崎	農業機械	北海道立中央農業試験場
(レシフェ)	レシフェ近郊	岩田健一	25 (長野)	畜産	千葉県畜産センター
(ポルト・アレグレ)	ラーモス	桑原正行	29 長崎	花卉園芸	北山兄弟バラ園
(アスンシオン)	イグアス	公文茂男	25 高知	畜産	岡崎牧場
	アルト・パラナ	篠藤喜男	23 愛媛	農協業務	愛媛県農業協同組合研修所
	アマンバイ	岡本深幸	25 兵庫	生活改善	日本高等国民学校
(フエノス・アイレス)	ウルキツサ	橋本敬之	29 福岡	花卉園芸	花卉栽培農家
	"	木村茂	24 群馬	花卉園芸	群馬県園芸試験場
(サンタ・クルス)	サンフアン	畑原等	25 長崎	農業機械	岩見沢機械センター(株)
	"	吉永末広	24 長崎	農協業務	川副農業協同組合
	オキナワ	山城博明	21 沖縄	畜産	沖縄県家畜衛生試験場

研修生研修機関一覧表（後期）

郵便番号	所在地	代表者名	電話番号
980	宮城県仙台市春日町9番10号	菅野貞子	0222-22-5221
861-11	熊本県菊池郡西合志町須屋2450	小林研二	09624-2-0167
980	宮城県仙台市春日町9番10号	菅野貞子	0222-22-5221
996	山形県新庄市大字角沢1336	新関信一郎	02332-2-1527
243-04	神奈川県海老名市杉久保2006	和泉清久	0462-21-5274
861-01	熊本県鹿本郡植木町岩野927	安達誠	09627-2-0359
078-02	旭川市永山三条6丁目64番地	高薄達雄	0166-48-1101
069-13	北海道夕張郡長沼町東六線北15	島崎佳郎	01238-9-2311
289-11	千葉県印旛郡八街町滝台	鹿間義之	0472-95-4511
	アメリカ合衆国カリフォルニア州ユニオンシティ	Ted 北山	
780	高知県高知市円行寺169	岡崎正英	0888-72-9496
791-31	愛媛県伊予郡松前町西高柳	岡田慎吾	08998-4-2243
319-03	茨城県東茨城郡内原町内原1497	加藤彌進彦	029259-2003
834	福岡県八女市大字忠見384	藤田恵	09432-2-4635
379-22	群馬県佐波郡東村大字西小保方493	中村吉男	02706-2-1021
068	北海道岩見沢市四条15丁目3番地	渡辺一一	01262-2-4421
840-22	佐賀県佐賀郡川副町大字鹿江2304	大坪平	09524-5-5111
902	沖縄県那覇市古波蔵112	上里宣治	0988-32-1515

第5回移住者子弟技術

支部および地区名	氏名	年齢	本籍地	研修希望職種	研修機関名
リオ・デ・ジャネイロ					
ブラジリア	大城竹幸	23	沖縄	観葉鉢物	第一園芸KK富士園芸研修学校
サンパウロ					
日光	有田和人	28	愛知	果樹園芸	山梨県果樹試験場
ビニヤール	広瀬昭憲	22	福井	農業機械	福井県農業試験場
ムンドノーボ	田中愛	18	秋田	生活改善	秋田県農業短期大学
グアタバラ	小林武久	19	長野	畜産(養豚)	長野県畜産試験場
日光	中村清	25	三重	養鶏	三重県農業経営大学校
ベレーン					
第2トメアスー	平水繁	26	宮崎	畜産(牧畜)	熊本県草地畜産高等研修所
"	遠藤憲一	27	福島	"	福島県畜産試験場
トレーゼセテンプロ	須藤毅	21	福島	自動車整備	仙台高等職業訓練校
レシーフェ					
サルバドール	吉井丈治	19	千葉	畜産(牧畜)	群馬県畜産試験場
ポルト・アレグレ					
ラーモス	鈴木等	24	北海道	果樹	長野県園芸試験場
アスン・シオン					
イグアス	関節朗	20	群馬	養蚕	群馬県蚕業試験場
アルト・パラナ	工藤則吉	23	岩手	旋盤・電気溶接	盛岡専修職業訓練校
アマンバイ	下元敬	22	高知	畜産	群馬県畜産試験場
ブエノス・アイレス					
ガルアベー	水野悦郎	24	長野	柑橘	静岡県柑橘果樹試験場
ウルキツサ	西田孝	18	長崎	花卉(カネシヨ)	長崎県総合農林試験場
サンタ・クルース					
サンフアン	牧尾孝司	19	長崎	畜産(牧畜)	長崎県畜産試験場
オキナワ	宮城邦夫	22	沖縄	"	"
"	池原正英	21	"	"	"

研修生研修機関一覧表

郵便番号	所在地	代表者名	電話番号
410-13	静岡県駿東郡小山町上野字下ノ原1101	佐藤正司	0550-6-0645
405	山梨市万力1530	大野俊雄	05532-2-1921
910	福井市寮町辺線52-22	石島慶一郎	0776-24-5100
010-04	南秋田郡大森村	佐藤健吉	018545-2026
399-07	長野市塩尻大字片丘10847	久保田建御	02635-2-1186
515-22	一志郡嬉野町川北	竹内博	059844-2-1258
869-23	阿蘇郡阿蘇町大字西湯浦1454	寺本一人	09673-2-1231
960-21	福島市荒井字地蔵原甲18	吉田武紀	024504-4
983	仙台市田子字寺1	鈴木正雄	0222-58-1151
371-01	勢多郡富士見村小暮2425	大江正直	027288-2222
382	須坂市大字小河原492	広瀬健吉	02624-5-0295
371	前橋市総社町総社2326-2	宮沢鉄雄	0272-51-5145
	盛岡市南仙北3-10-40	外岡九郎	0196-36-1706
371-01	勢多郡富士見村小暮2425	大江正直	027288-2222
424	清水市駒越2712	中間和光	0543-34-5351
854	諫早市貝津町3118	高木睦夫	09572-2-3330
859	南高来郡有明町湯江丁3600	宮島良明	0957605-516
859	"	"	"
859	"	"	"

第4回移住者子弟技術研修生

地 区	氏 名	研修職種	研 修 機 関 名
リオ・デ・ジャネイロ イタグアイ	岡崎ソニア・マリア (26才)	花 卉	佛赤塚植物園
サンパウロ グアタバラ	渡 辺 一 寛 (25才)	養 鶏	茨城県養鶏試験場
サンパウロ 日 光	中 村 弘 (27才)	養 蚕	群馬県養蚕試験場
サンパウロ ビニヤール	深 沢 裕 夫 (23才)	果 樹	山梨県果樹試験場
サンパウロ バルゼア・アレグレ	西 山 立 美 (20才)	農 産 加 工	山口県経済農業協同組合連合会 山口加工場
ベレーン モンテ・アレグレ	高 谷 和 夫 (26才)	牧 畜	福岡県種畜場
ベレーン マナウス	出 田 洋 次 (24才)	自動車整備	熊本県専修職業訓練校
ベレーン アカラ	細 越 卓 美 (21才)	"	東京都江戸川高等職業訓練校
レシーフェ クビチェック	竹 並 明 弘 (21才)	柑 橘	福岡県園芸試験場
レシーフェ クビチェック	神 田 晃 (19才)	"	"
ポルト・アレグレ イタチ	宮 崎 信 輔 (28才)	果 樹	熊本県果樹試験場
アスンシオン フラム	渡 辺 保 夫 (23才)	農 協	広島県農業協同組合研修センター
アスンシオン アマンバイ	原 本 功 (26才)	"	高知県大方農業協同組合
アスンシオン アスンシオン	堤 田 元 克 (22才)	果 樹	山梨県果樹試験場
ブエノス・アイレス アンデス	米 慎 也 (21才)	"	"
ブエノス・アイレス ガルアペー	植 松 吉 巻 (24才)	"	農林省果樹試験場 興津支場
サンタ・クルース オキナワ	平 良 賢 次 (27才)	農 協	福岡県農業協同組合講習所
サンタ・クルース サンフアン	藤 井 恒 正 (26才)	"	"
サンタ・クルース オキナワ	幸 地 哲 雄 (23才)	"	"
サント・ドミンゴ ハラバコア	福 永 正 彦 (26才)	農業機械	佐賀県農業研修学園

研修機関一覧表

郵便番号	所在地	電話番号	備考
514-22	三重県津市高野尾町	(0592) 26-2851	代表取締役： 赤塚充良
311-31	東茨城郡茨城町大字小幡字栗林320の3	(02929) 2-1133	場長： 吉田 貢
371	前橋市総社町総社2326の2	(0272) 51-5145	場長： 宮沢 鉄雄
405	山梨市万力1530	(05532) 2-1921	場長： 大野 俊雄
759-11	山口市仁保下郷第1,771	(08392) 7-0111	会長：滝口 紳 工場長：村本 俊雄
838-01	小郡市北中尾4,839の7	(09427) 2-2128	場長： 尾高 従宣
861-41	熊本市御幸笛田町375	(0963) 64-1217	校長： 有働 安則
132	都内江戸川区中央2-31-27	(03) 653-1221	校長： 鈴木 興一
814	福岡市南区大字柏原571	(092) 55-1861	場長： 小原 越
"	"	"	"
861-53	飽託郡河内町船津	(096300) 24	場長： 西田 久仁徳
730	広島市牛田町早稲田	(0822) 22-5262	所長： 大田 黒 亮
789-19	高知県幡田郡大方町		町長：小野川 俊二 組合長：長野 正季
405	山梨市万力1,530	(05532) 2-1921	場長： 大野 俊雄
"	"	"	"
424-02	清水市興津中町	(0543) 69-2111	支場長：千野 知長 場長：佐藤 公一
813	福岡市東区大字名島字汐見2,751の3B	(092) 68-0304	所長： 原 田 猛
"	"	"	"
"	"	"	"
840-22	佐賀郡川副町南里	(09524) 5-2145	園長： 吉岡 充男

第 3 回 移 住 者 子 弟

国 名	地 区 名	氏 名	年 令	性 別	渡 航 月 日	渡 航 時 年 令
ブラジル国	ノボ・フリブルゴ	野口忠義	24	男	昭和32年 3月	8才
同 上	カタパラ	設楽新作	23	男	" 38年 7月	13 "
同 上	日 光	佐々木哲朗	23	男	" 34年 2月	8 "
同 上	ノボ・ムンド	大塚 寛	22	男	" 32年 8月	6 "
同 上	第2トメアスー	西田 清	21	男	" 41年 2月	14 "
同 上	サンタレン	千葉京子	23	女	" 29年12月	5 "
同 上	クビチェック	東 春好	20	男	" 35年 3月	7 "
同 上	イ ボ チ	三輪 新太郎	22	男	" 29年11月	3 "
パラグアイ国	アルト・パラナ	永井儀昭	28	男	" 36年 4月	16 "
同 上	イ グ ア ス	渡辺準一	20	男	" 42年 6月	14 "
同 上	アマンバイ	岡本儀彦	25	男	" 33年 8月	10 "
アルゼンチン国	カルアベー	小野達朗	24	男	" 36年 4月	12 "
ボリビア国	オキナワ第1	根間玄真	25	男	" 29年 7月	6 "
同 上	サンフアン	長谷研詞	22	男	" 30年 5月	4 "
ドミニカ国	ビセンテ・ノーブレ	鈴木 雅	23	男	" 33年 5月	9 "

技術研修生一覽表

本籍地	研修科目	研 修 先	
北海道	花 卉	神奈川県立農業大学校	(4 8 . 4 ~ 4 9 . 3)
		(篤農家) 大沢春吉	(4 9 . 4 ~ 4 9 . 9)
茨 城	養 蚕	群馬県蚕業試験場	(4 8 . 4 ~ 4 9 . 9)
愛 媛	養 蚕	同 上	
徳 島	農 協 貿 易	徳島県農協中堅職員養成所	(4 8 . 4 ~ 4 8 . 7)
		徳島県石井町農業協同組合	(4 8 . 8 ~ 4 8 . 1 1)
		大洋漁業(株) 貿易第2部	(4 8 . 1 2 ~ 4 9 . 9)
宮 崎	農業機械	農林省農業技術研修館	(4 8 . 4 ~ 4 9 . 3)
		茨城イセキ販売(株)ほか	(4 9 . 4 ~ 4 9 . 9)
宮 城	農産加工	宮城県立上沼農校実習部	(4 8 . 4 ~ 4 8 . 1 1)
		清水市農業協同組合	(4 8 . 1 2 ~ 4 9 . 3)
長 崎	花 卉	長崎県総合農林センター	(4 8 . 4 ~ 4 8 . 9)
		長崎県大村果樹試験場	(4 8 . 1 0 ~ 4 9 . 9)
静 岡	果 樹	山梨県果樹試験場	(4 8 . 4 ~ 4 9 . 3)
		(篤農家) 内田金之助	(4 9 . 4 ~ 4 9 . 9)
愛 媛	畜 産	農林省十勝種畜牧場	(4 8 . 4 ~ 4 8 . 1 1)
		群馬県畜産試験場	(4 8 . 1 2 ~ 4 9 . 9)
福 岡	畜 産	農林省十勝種畜牧場	(4 8 . 4 ~ 4 8 . 1 1)
		埼玉種畜牧場	(4 8 . 1 2 ~ 4 9 . 9)
兵 庫	農 協	兵庫専修職業訓練校	(4 8 . 4 ~ 4 9 . 3)
		兵庫県姫路農業協同組合	(4 9 . 4 ~ 4 9 . 9)
宮 崎	果 樹	宮崎県立農業大学校	(4 8 . 4 ~ 4 8 . 1 0)
		長崎県大村果樹試験場	(4 8 . 1 1 ~ 4 9 . 3)
		農林省園芸試験場、興津支場	(4 9 . 4 ~ 4 9 . 9)
沖 縄	農 協 貿 易	宮崎県立農協講習所	(4 8 . 4 ~ 4 9 . 3)
		兼 松 江 商 (株)	(4 9 . 4 ~ 4 9 . 9)
長 崎	農業機械	農林省農業技術研修館	(4 8 . 4 ~ 4 9 . 3)
		イセキ・カワサキサービス販売(株)	(4 9 . 4 ~ 4 9 . 9)
愛 知	果 樹	愛知県農業総合試験場	(4 8 . 4 ~ 4 9 . 9)

第2回(昭和47年度)

国名	地区	氏名	生年月日 (年齢)	渡航 年月日	(日本) 学歴 現地	本籍地または 父親出身地
ブラジル	リオ・デ・ジャネイロ市 バブカイヤ地区	横山 覚	S. 29. 5.16 (18)	2 世	(-) 中 卒	(父) 福 島
	サン・パウロ州 ジャカレイ移住地	山 上 としこ	26. 12.6 (21)	S. 40. 8	(中3中退) 中1中退	愛 媛
	サン・パウロ州 桜 植 民 地	佐 藤 良 洋	25. 5.26 (22)	38. 1	(中1中退) (-)	北 海 道
	アマゾナス州 マ ナ ウ ス 市	石 沢 力 雄	22. 8. 9 (25)	29. 4	(-) 商 高 卒	山 形
	ベルナンブーロ州 リオ・ボニート入植地	森 村 正 隆	17.10.11 (29)	31. 7	(中2中退)	群 馬
	サンタ・カリーナ州 ラ ー モ ス 移 住 地	日 浦 秀 雄	20.10.19 (26)	37.10	(中 退)	北 海 道
	イ タ ブ ア 県 フ ラ ム 移 住 地	久 岡 寛	16. 6.19 (31)	33. 7	(高1修了) 小4修了	高 知
ポリ ピ ア	サンタ・クルーズ県 オキナワ オキナワ第3移住地	久 高 将 行	24. 8. 3 (24)	36.	(小6中退) 高 卒	沖 縄
ド ミ ニ カ	ベラビア県 バニエ地区	藤 川 求	22.12.13 (23)	32.10	(小4中退) 高2在中	愛 媛

移住者子弟技術研修生一覧表

研 修 機 関	主 な 研 修 内 容
福島県立 小高農業高等学校	野菜・園芸・農学一般
堺市養鶏農業協同組合	畜産（ブロイラ養鶏）
神奈川県立 農業大学校別科	花・果樹
座王ハム有限公司	畜産加工（ハム・ソーセージ）
群馬県畜産試験場	野菜・畜産
長野県園芸試験場	果樹（リンゴ）
群馬県立 農業大学校蚕業学校	養 蚕
三井物産㈱大阪支店 原綿糸織物部綿花課	① 綿花事情 ② 綿花格付士資格取得 （アメリカ）
雇用促進事業団 愛媛総合高等職業訓練校	農業機械修理

第1回(昭和46年度)

国名	(推せん支部)	氏名	生年月日 年令	学歴 (日本) 現地	本籍地または 父親出身地
ドミニカ	(サントドミンゴ) コンスタンサ	村田千秋	昭和 23.3.14 23才	(小3中退) 中卒	鹿児島県川内市
ブラジル	(ベレン) 第2トメアス	武藤義博	17.4.7 29才	(小卒) 中卒	福島県会津若松市
ラテンアメリカ	(レシーフェ) クビチエック	岡本耕次	25.6.14 21才	(小4中退) 高卒	愛媛県 東宇和郡城内町
南米	(リオデジャネイロ) フンシャル	池田秀広	27.7.5 19才	(なし) 2世 中卒	広島県深安郡市村
南米	(サンパウロ) グァタバラ	脇山昭治	25.10.28 20才	(小6中退) 工業学校 SENAI (職業訓練コース)卒	佐賀県唐津市
南米	(サンパウロ) ビニャール	山田豊	23.10.6 22才	(中卒) 小2修了	福井県武生市
南米	(サンタクルス) サンファン	仁田原豊	23.9.4 23才	(小3中退) 高1中退	福岡県八女郡黒木町
南米	(アスンシオン) エンカルナシオン	安田孝	12.4.3 34才	(大2中退) なし	秋田県仙北郡協和村
南米	(ブエノスアイレス) ブエノスアイレス州 クアルテル・クアル ト・モレン	榎本一穂	27.3.26 19才	(なし) 2才 渡航時 中卒	和歌山県田辺市

移住者子弟技術研修生一覧表

研 修 機 関	研 修 内 容
鹿児島県 農村センター 高等部園芸科	そ栽培、午前中講義受講、午後除草、消毒、出荷等実習。研修旅行（ヤンマー長浜研習所で3日間農業用エンジン分解・組立実習、長野県営伝中央農場、京都タキイ種苗見学）。
福島県立 農業短期大学 協同組合科	農業経済、農業簿記、農協原論、農協経営論、農業法規、農業機械等講義受講。研修旅行（静岡県三ヶ日農協他2ヶ所）。県内湯野農協等で実習。
愛媛県 果樹試験場南予分場	講義～落葉果樹、病虫害防除、土壌肥料、柑橘栽培等。 実習～夏柑採果、除草、薬剤散布、落果調査等。 落葉果樹研修。
広島県立 西条農業高等学校 広島県食品工業試験場	果物の成分検査、イチゴジャム、ママレードの加工実習、トラクター運転実習。 工場見学（三島食品）7/26～8/31県食品工業試験場で研修（農産物加工製造技術および同分析法の課程終了）
佐賀県 養鶏試験場	養鶏経営（衛生、繁殖、育種等）を中心とした講義受講。解体、飼料配合等の実習。全販速佐賀種鶏場における雛卵舎、育雛舎、病理解体等の場外実習。
福井県 農業後継者センター 本科畜産専攻	乳牛飼育について午前中講義、午後実習。5/24から1ヶ月間農家実習（乳牛） 7/19～24第2回全国農村青少年研修交換大会（於 八ヶ岳）に参加。
福岡県 種 鶏 場	衛生面を主体に育雛管理、防疫、解剖等の実習。飼料、設備、交配等専門的分野の講義受講。9月より2ヶ月間民間養鶏場で実習（飼育管理の実際、販売流通システム等）。
秋田県立 金足農業高等学校 農協専攻科	農協法、農業経済、簿記等講義受講。7/23～29県経済連で各支部実習。 金浦農協等県内農協で実習。8/10～13埼玉県川口市内で農業研修
和歌山県 農業大学校 園芸科花卉部門	農業経営、果樹、作物、畜産、農業機械等講義受講。 サルビア、マリーゴールド、ペコニア等の育苗、定植その他の花卉実習。

